

Oracle® Fusion Middleware

Oracle WebLogic Server Application Adapters
インストール・ガイド

12c リリース 1 (12.1.3.0.0)

E61974-02

2014 年 9 月

Oracle Oracle WebLogic Server Application Adapters の
インストールと構成の方法について説明します。

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters インストール・ガイド,
12c リリース 1 (12.1.3.0.0)

E61974-02

Copyright © 2001, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

原著者 : Stefan Kostial

原協力者 : Vikas Anand, Marian Jones, Sunil Gopal, Bo Stern

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスのもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	vii
対象読者	vii
ドキュメントのアクセシビリティについて	vii
関連ドキュメント	vii
表記規則	viii
1 はじめに	
Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要	1-1
インストール・タイプ	1-2
Oracle Fusion Middleware Application Adapter システム要件	1-2
ハードウェア要件	1-2
サポートされるモード	1-3
ソフトウェア要件	1-4
サポートされている EIS システム	1-5
SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)	1-5
PeopleSoft	1-6
Siebel	1-6
J.D. Edwards OneWorld	1-7
2 インストールおよび構成	
必要な Oracle パッチ	2-1
インストールの概要	2-1
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール	2-2
新規インストールの実行	2-2
複数のアダプタ・インストール・インスタンスのサポート	2-5
サイレント・インストールの実行	2-6
前提条件	2-6
サイレント・インストーラの使用	2-6
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード	2-8
前提条件	2-9
アダプタのアップグレード	2-10
AIX プラットフォームでの DB2 リポジトリの使用	2-13
アプリケーション・エクスプローラの起動	2-14

Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスプローラの構成	2-15
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine の構成の作成.....	2-15
Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture の構成の作成.....	2-17
J2CA の構成およびデプロイ	2-18
J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成.....	2-19
J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成.....	2-19
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションの デプロイ.....	2-21
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ.....	2-26
アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続.....	2-30
Business Services Engine の構成およびデプロイ	2-30
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成.....	2-31
Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ.....	2-31
アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続.....	2-35
ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新	2-35
デプロイメント・スクリプトへのアクセス.....	2-36
Windows プラットフォーム.....	2-36
Windows 以外のプラットフォーム.....	2-37
デプロイメント・スクリプトの使用.....	2-37
インストール後のタスク	2-44
エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト.....	2-45
エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー.....	2-49
ディレクトリ構造.....	2-50
Oracle データベース・リポジトリの構成.....	2-51
DB2 データベース・リポジトリの構成.....	2-56
サポートされる DB2 バージョン.....	2-57
使用に関する考慮事項.....	2-57
前提条件.....	2-57
DB2 データベース・リポジトリの作成.....	2-57
J2CA リポジトリの構成.....	2-59
BSE リポジトリの構成.....	2-60
Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成.....	2-61
サポートされる MS SQL Server バージョン.....	2-62
使用に関する考慮事項.....	2-62
前提条件.....	2-62
MS SQL Server データベース・リポジトリの作成.....	2-63
J2CA リポジトリの構成.....	2-63
BSE リポジトリの構成.....	2-65
Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール	2-66
サイレント・アンインストーラの使用.....	2-67

A Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成

PeopleSoft のバージョンの指定.....	A-1
アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール.....	A-2
コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド.....	A-2
コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成.....	A-5
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft 用の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール.....	A-10
PeopleTools のアップグレード.....	A-12

B Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成

アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更.....	B-1
OneWorld イベント・リスナー.....	B-2
OneWorld イベント・リスナーの構成.....	B-2
AS/400 でのイベント・リスナーの構成.....	B-4
実行時の概要.....	B-6

索引

はじめに

『Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters インストール・ガイド』へようこそ。このドキュメントでは、Oracle WebLogic Server Application Adapters のインストールと構成の方法について説明します。

対象読者

このドキュメントは、ERP アプリケーション・アダプタのインストールおよび構成を行うシステム管理者を対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

お客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle Enterprise Repository 12c リリース 1 (12.1.3.0.0) ドキュメント・セット内の次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter ベスト・プラクティス・ガイド*
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter アップグレード・ガイド*
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.0) ユーザーズ・ガイド*
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for Siebel ユーザーズ・ガイド*
- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド*

- *Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld ユーザーズ・ガイド*
- Oracle Unified Method (OUM)

Oracle Unified Method (OUM) では、その他の管理情報を豊富に提供しています。OUM は、オラクル社の従業員、パートナー・ネットワーク認定パートナーや認定アドバンテージ・パートナーとともに、OUM 顧客プログラム、またはオラクル社によるコンサルティング・サービス提供プロジェクトにご参加いただいているお客様にもご利用いただけます。OUM はソフトウェア開発および実装プロジェクトの計画、実施、管理用の Web デプロイ型ツールキットです。

OUM の詳細は、次の URL の OUM FAQ を参照してください。

http://my.oracle.com/portal/page/myo/ROOTCORNER/KNOWLEDGEAREAS1/BUSINESS_PRACTICE/Methods/Learn_about_OUM.html

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

はじめに

この章では、Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters 12c リリース 1 (12.1.3.0.0) の概要を説明します。内容は次のとおりです。

- 1.1 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要」
- 1.2 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter システム要件」

注意： <ORACLE_HOME> は、このドキュメントでは、12c がインストールされているホームの場所を指します。

<ADAPTER_HOME> は、このドキュメントでは、次の場所を指します。

SOA の場合：

<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters

OSB の場合：

<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters

<ORACLE11g_HOME> は、このドキュメントでは、11g がインストールされているホームの場所を指します。

1.1 Oracle Fusion Middleware Application Adapter 概要

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapters CD を使用すると、パッケージ化されたアプリケーションのアダプタをインストールできます。

パッケージ化されたアプリケーションのアダプタによって、パッケージ化された様々なアプリケーション (SAP R/3 や Siebel など) と Oracle WebLogic Server が統合されます。このアダプタには、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel および Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld が含まれます。

表 1-1 に、パッケージ化されたアプリケーションのアダプタを示します。

表 1-1 Oracle Fusion Middleware パッケージ化されたアプリケーション用のアプリケーション・アダプタ

アダプタ	説明
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld	J.D. Edwards OneWorld アプリケーションへの包括的で規格に基づく双方向接続を提供します。

表 1-1 Oracle Fusion Middleware パッケージ化されたアプリケーション用のアプリケーション・アダプタ (続き)

アダプタ	説明
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft	PeopleSoft アプリケーションへの包括的で規格に基づく双方向接続を提供します。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel	実装のための労力を最小限に抑える固有の機能を提供して、Oracle WebLogic Server を Siebel システムと接続します。
Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3	SAP R/3 システムとの接続および統合を提供するために、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 を介して Oracle WebLogic Server を SAP R/3 システムと接続します。

1.1.1 インストール・タイプ

パッケージ化されたアプリケーションのアダプタは、次の形でデプロイできます。

- J2CA デプロイメント用の J2CA 1.0 リソース・アダプタおよびテスト・サーブレット
- Oracle WebLogic Server内のWebサービス・サーブレット(Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) として知られる)

パッケージ化されたアプリケーションの Oracle WebLogic Server Application Adapters を (J2CA および BSE デプロイメント用に) 構成するための、Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスペローラ (アプリケーション・エクスペローラ) も提供されます。

1.2 Oracle Fusion Middleware Application Adapter システム要件

次の各項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールするためのシステム要件について説明します。

- 1.2.1 項「ハードウェア要件」
- 1.2.2 項「サポートされるモード」
- 1.2.3 項「ソフトウェア要件」
- 1.2.4 項「サポートされている EIS システム」

1.2.1 ハードウェア要件

表 1-2 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールするコンピュータのハードウェア要件を示します。

表 1-2 ハードウェア要件

ハードウェア	Windows 2000	Linux	Solaris	HP-UX	AIX
ディスク領域 (すべてのアダプタをインストールする場合)	200 MB	200 MB	200 MB	200 MB	200 MB
メモリー	1 GB	1 GB	1 GB	1 GB	1 GB

1.2.2 サポートされるモード

次の項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるモードをリストします。

Oracle サービス指向アーキテクチャ (SOA) と Oracle Business Process Management (BPM)

サポートされるモードは次のとおりです。

- 管理対象モード

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デプロイメント中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。

- 統合サーバー・モード

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デフォルトで、デプロイメント中に統合サーバーにデプロイされます。

Oracle Service Bus (OSB)

サポートされるモードは次のとおりです。

- 管理対象モード

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デプロイメント中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。

- 統合サーバー・モード

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デフォルトで、デプロイメント中に統合サーバーにデプロイされます。

結合された Oracle サービス指向アーキテクチャ (SOA) と Oracle Service Bus (OSB)

サポートされるモードは次のとおりです。

- 管理対象モード

注意：

- SOA と OSB が結合された環境で SOA と OSB を使用するためには、Oracle Fusion Middleware Application Adapters を SOA のディレクトリ (例: <ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters) にインストールするだけで十分です。
 - Oracle Fusion Middleware Application Adapters は、デプロイメント中に管理対象サーバーにデプロイする必要があります。
-
-

1.2.3 ソフトウェア要件

次の項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters のソフトウェア要件について説明します。

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるシステムおよびプラットフォームは、個々のアダプタのレベルによって異なります。

Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるシステムおよびプラットフォームの詳細は、1-5 ページ [1.2.4 項「サポートされている EIS システム」](#) を参照してください。

オペレーティング・システム要件

[表 1-3](#) に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールするコンピュータのオペレーティング・システム要件を示します。

注意： Oracle 12c(12.1.3.0.0) リリースでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld および Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ動作保証されます。これらの 2 つのアダプタは、Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリース以外のプラットフォームでは動作保証されず、サポートされません。他のプラットフォームでこれらのアダプタをサポートする必要がある場合は、オラクル社のカスタマ・サポートに連絡してください。

表 1-3 オペレーティング・システム要件

プラットフォーム・タイプ	64 ビット・プラットフォームのリスト	JDK バージョン
Windows	x64 Windows 2003 with SP2/R2+	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 Windows Server 2008	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
Solaris	Oracle Solaris SPARC 9	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	Oracle Solaris SPARC 10 Update 4+	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	Oracle Solaris SPARC 11	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
HP	PA-RISC HP UX 11i 11.23、11.31	HP JDK 1.7.0_09+ (64 ビット)
	Itanium-2 HP UX 11.23、11.31	HP JDK 1.7.0_09+ (64 ビット)
Linux	x64 RedHat Linux EL 4(UL7+)	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 RedHat Linux EL 5.x (UL3+)	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 SUSE10	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 4(UL7+)	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 5.x (UL5+)	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)
	x64 Oracle Enterprise Linux 6.x (UL1+)	■ Sun 1.7.0_55+ (64 ビット)

表 1-3 オペレーティング・システム要件 (続き)

プラットフォーム・タイプ	64 ビット・プラットフォームのリスト	JDK バージョン
AIX	IBM Power AIX 5L (5.3 ML01+)	IBM 1.7.0.10 SR2 (64 ビット)
	IBM Power AIX 6.1	IBM 1.7.0.10 SR2 (64 ビット)
	IBM Power AIX 7.1 (TL2+)	IBM 1.7.0.10 SR2 (64 ビット)

サポートされる Oracle 製品

表 1-4 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされる Oracle 製品を示します。

表 1-4 サポートされる Oracle 製品

製品	コンポーネント	バージョン
Oracle SOA Suite	BPEL Process Manager、Mediator	12.1.3.0.0
Oracle BPM	BPMN	12.1.3.0.0
Oracle Service Bus	ビジネス・サービス、プロキシ・サービス	12.1.3.0.0

サポートされるデータベース・リポジトリ

表 1-5 に、Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるデータベース・リポジトリを示します。

表 1-5 サポートされるデータベース・リポジトリ

データベース	バージョン	プラットフォーム
Oracle Database Enterprise Edition	リリース 12.1.0.1.0 製品版	Windows、Solaris、HP、Linux および AIX

1.2.4 サポートされている EIS システム

この項では、次の EIS システムでサポートされている、リリースとシステム・プラットフォームの組合せを示します。

- [SAP R/3\(SAP JCo 3.x 使用\)](#)
- [PeopleSoft](#)
- [Siebel](#)
- [J.D. Edwards OneWorld](#)

1.2.4.1 SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用) でサポートされる SAP R/3 プラットフォームは次のとおりです。

- SAP R/3 Enterprise 47x100
- SAP R/3 Enterprise 47x200
- mySAP ERP Central Component (ECC)5.0(SAP NetWeaver 2004 にデプロイした場合)

- mySAP ERP Central Component (ECC)6.0(ASAP NetWeaver 2004s にデプロイした場合)
- SAP Java Connector (SAP JCo) バージョン 3.0.11

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x を使用) でサポートされるオペレーティング・システムは次のとおりです。

- Windows 64 ビット (Windows XP、Windows Vista、Windows Server 2003 および Windows Server 2008)
- Linux(Intel プロセッサのみ) - (64 ビットのみ)
- HP-UX PA-RISC -(64 ビットのみ)
- HP-UX Itanium -(64 ビットのみ)
- Solaris -(64 ビットのみ)
- AIX -(64 ビットのみ)

各オペレーティング・システムに対応するサポート対象 JVM の情報は、SAP Service Marketplace の SAP ノート #1077727 を参照してください。

1.2.4.2 PeopleSoft

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft でサポートされる PeopleSoft プラットフォームは次のとおりです。

アダプタ・プラットフォーム	PeopleSoft プラットフォーム	PeopleSoft のリリース	PeopleTools のリリース・レベル
プラットフォームのリストは次の表を参照: 表 1-3 「オペレーティング・システム要件」	Windows および Linux	8.1	8.16.03 - 8.22
		8.4	8.40.05 - 8.52

注意: Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ動作保証されます。このアダプタは、Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリース以外のプラットフォームでは動作保証されず、サポートされません。このアダプタを他のプラットフォームでサポートする必要がある場合は、オラクル社のカスタマ・サポートに連絡してください。

1.2.4.3 Siebel

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel でサポートされる Siebel プラットフォームは次のとおりです。

アダプタ・プラットフォーム	Siebelプラットフォーム	Siebelのリリース	API
プラットフォームのリストは次の表を参照: 表 1-3 「オペレーティング・システム要件」	Windows	6.0.1 - 6.2	COM
	Windows	6.3 - 8.2	Java データ Bean
	Linux	6.3 - 8.2	Java データ Bean
	Solaris	6.3 - 8.2	Java データ Bean
	HP	6.3 - 8.2	Java データ Bean
	AIX	6.3 - 8.2	Java データ Bean

注意: サポートされる Siebel リリースについて、バージョン 8.2 は Public Sector バージョンを指します。

1.2.4.4 J.D. Edwards OneWorld

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld でサポートされる J.D. Edwards OneWorld プラットフォームは次のとおりです。

アダプタ・プラットフォーム	J.D. Edwards OneWorldプラットフォーム	J.D. Edwards OneWorld 製品およびリリース
プラットフォームのリストは次の表を参照: 表 1-3 「オペレーティング・システム要件」	Windows および Linux	<ul style="list-style-type: none"> ■ XE (B7333)SP19 から SP23 まで ■ ERP 8.0(B7334) ■ EnterpriseOne B9(8.9) ■ EnterpriseOne 8.10 (Tools リリース 8.93 および 8.94) ■ EnterpriseOne 8.11(SP1) ■ EnterpriseOne 8.12 (Tools リリース 8.96 2.0) ■ EnterpriseOne 9.0 (Tools リリース 8.98.1.3) ■ EnterpriseOne 9.1 (Tools リリース 9.1 02)

注意: Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリースでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld は Windows および Oracle Enterprise Linux プラットフォームでのみ動作保証されます。このアダプタは、Oracle 12c (12.1.3.0.0) リリース以外のプラットフォームでは動作保証されず、サポートされません。このアダプタを他のプラットフォームでサポートする必要がある場合は、オラクル社のカスタマ・サポートに連絡してください。

インストールおよび構成

この章では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server 12c のインストールおよび構成の方法を説明します。次のトピックについて説明します。

- 2.1 項「必要な Oracle パッチ」
- 2.2 項「インストールの概要」
- 2.3 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール」
- 2.4 項「Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスペローラの構成」
- 2.5 項「J2CA の構成およびデプロイ」
- 2.6 項「Business Services Engine の構成およびデプロイ」
- 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」
- 2.8 項「インストール後のタスク」
- 2.9 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール」

2.1 必要な Oracle パッチ

Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle Service Bus の sbconsole および JDeveloper OSB プロセスが設計どおりに機能するためには、次のパッチが必要です。

OSB 12c の必須パッチ (パッチ 19224394)

12c では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters を Oracle Service Bus で使用するには、このパッチが必要です。

パッチ 19224394 は、Oracle サポート Web サイトからダウンロード可能です。

<http://support.oracle.com>

詳細は、Oracle カスタマ・サポートにご連絡ください。

2.2 インストールの概要

12c リリース 1 (12.1.3.0.0) の Application Adapter インストーラは、Oracle Service-Oriented Architecture (SOA) Suite および Oracle Service Bus (OSB) に適用されます。インストールされる Application Adapters は、Business Process Execution Language (BPEL)、メディエータ、Business Process Management (BPM)、および Oracle Service Bus (OSB) コンポーネントで使用できます。

12c インストーラでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapters でサポートされるアップグレード・オプションが提供されます。アダプタを PS6 から 12c にアップグレードできます。さらに、サイレント・インストーラ・オプションも使用できます。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 のインストール

12c の Application Adapter インストーラでは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x) のみがインストールされます。

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 2.x) を使用している場合は、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.x) にアップグレードすることをお勧めします。

2.3 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のインストール

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server 12c のインストールの方法を説明します。次のトピックについて説明します。

- [2.3.1 項「新規インストールの実行」](#)
- [2.3.2 項「複数のアダプタ・インストール・インスタンスのサポート」](#)
- [2.3.3 項「サイレント・インストールの実行」](#)
- [2.3.4 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード」](#)
- [2.3.5 項「アプリケーション・エクスペローラの起動」](#)

2.3.1 新規インストールの実行

Oracle Fusion Middleware Application Adapters を新規 (フレッシュ) インストールするには、次の手順を実行します。

1. ターミナルを開き、システム上のインストール・ファイルがある場所に移動して、プラットフォーム固有のインストーラを実行します。
 - **Windows:** `iwora12c_application-adapters_win.exe`
 - **Linux:** `iwora12c_application-adapters_linux.bin`
 - **Solaris:** `iwora12c_application-adapters_solaris.bin`
 - **HPUX:** `iwora12c_application-adapters_hpux.bin`
 - **AIX:** `iwora12c_application-adapters_aix.bin`

次の例は、Windows および Windows 以外のプラットフォームでインストーラを実行する方法を示します。

Windows プラットフォーム：

オプション 1:

インストーラがあるフォルダに移動し、.exe ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダに移動して、.exe ファイルを実行します。

Windows 以外のプラットフォーム：

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダに移動して、.bin ファイルを実行します。

概要画面が表示されます。

注意： この手順で示す画像は、Windows インストーラでのサンプルです。インストール手順はすべてのプラットフォームで同じです。

2. 「次へ」をクリックします。

図 2-1 に示すように、Oracle ホーム・フォルダの選択画面が表示されます。

図 2-1 Oracle ホーム・フォルダの選択画面



3. 適切な Oracle のホームの場所を選択します。

SOA の場合：

```
<ORACLE_HOME>\soa
```

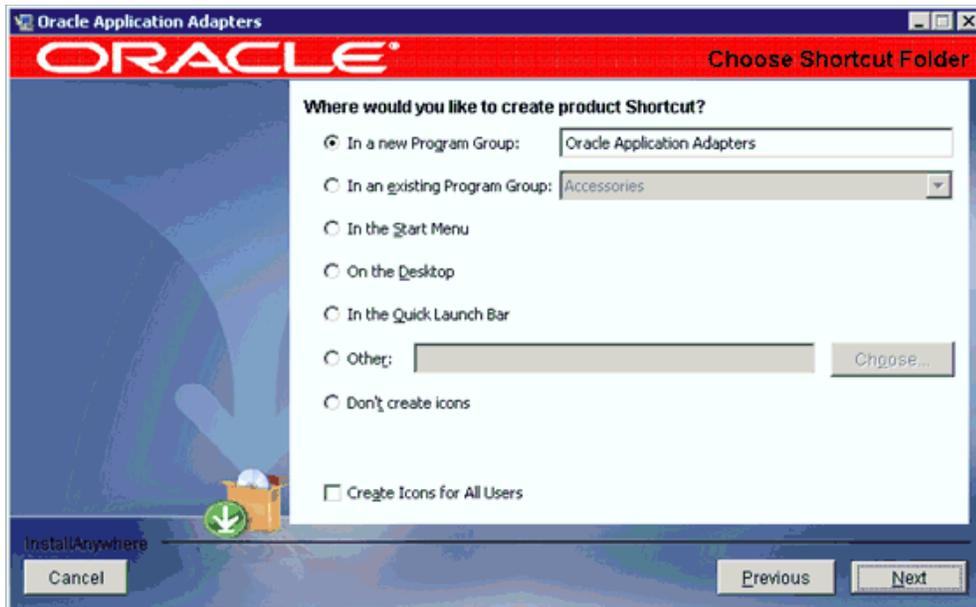
OSB の場合：

```
<ORACLE_HOME>\osb
```

4. 「次へ」をクリックします。

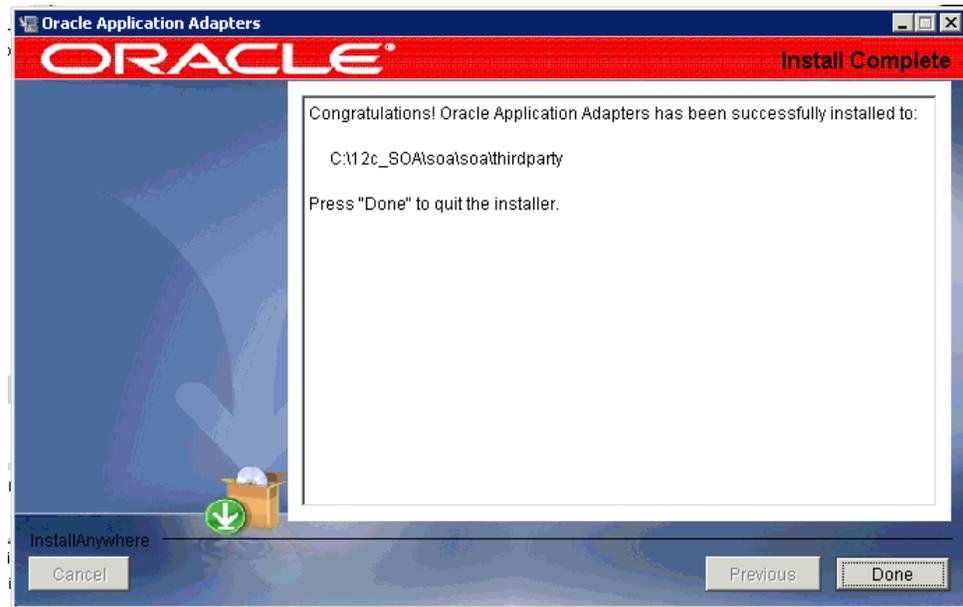
図 2-2 に示すように、ショートカット・フォルダの選択画面が表示されます。

図 2-2 ショートカット・フォルダの選択画面



5. ショートカットをインストールする場所を選択します。
このステップは Windows プラットフォームにのみ該当します。Windows 以外のプラットフォームでは省略されます。
6. 「次へ」をクリックします。
インストール前のサマリー画面が表示されます。
7. すべての情報が正しいことを確認し、「インストール」をクリックします。
インストール・プロセスが開始されます。
8. インストールが完了したら、図 2-3 に示すように、アダプタのインストール先が表示されることを確認し、「完了」をクリックします。

図 2-3 インストール完了画面



9. Oracle Fusion Middleware Application Adapters がインストールされたら、次のように、ファイルが適切な SOA または OSB のホーム・ディレクトリにコピーされたことを確認します。

- SOA の場合：

<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters

- OSB の場合：

<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters

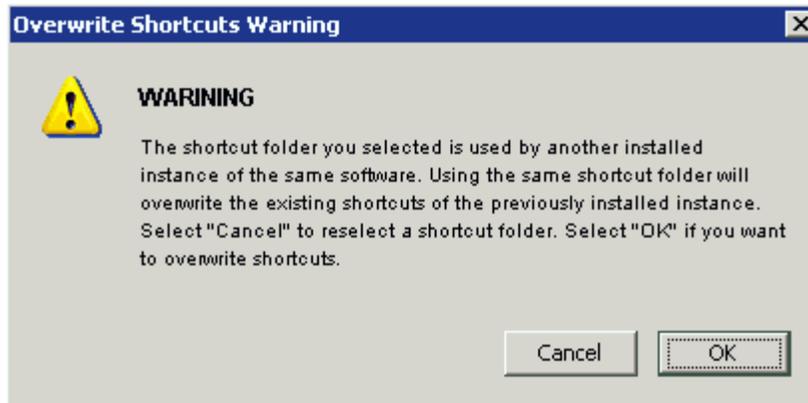
同じシステム上の別の場所（たとえば C:\12c_SOA\soa や C:\12c_OSB\osb）にアダプタをインストールする場合は、2-5 ページ 2.3.2 項「複数のアダプタ・インストール・インスタンスのサポート」の手順に従います。そうしない場合は、2-14 ページ 2.3.5 項「アプリケーション・エクスプローラの起動」に進みます。

2.3.2 複数のアダプタ・インストール・インスタンスのサポート

同じシステムに複数のアダプタ・インストールのインスタンスをインストールするには、2-2 ページ 2.3.1 項「新規インストールの実行」での説明と同じ手順を実行します。

注意： Windows プラットフォームでは、アダプタの 2 つ目のインスタンスのインストール中に、1 つ目のアダプタのインスタンスのインストールで使ったのと別のショートカット・フォルダを選択します。これにより、図 2-4 に示した次の警告メッセージが生成されるのを防ぎます。

図 2-4 ショートカットの上書きの警告



2.3.3 サイレント・インストールの実行

この項では、サイレント・インストールの実行方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 2.3.3.1 項「前提条件」
- 2.3.3.2 項「サイレント・インストーラの使用」

2.3.3.1 前提条件

次のリストに、アダプタのアップグレードに固有のサイレント・インストーラの前提条件を示します。サイレント・インストーラを使用してフレッシュ・インストールとしてアダプタをインストールする場合は、これらの前提条件は省略できます。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、実行中のすべてのサーバー (管理および管理対象) を停止します。実行中のサーバーがあると、アップグレードが完了せず、警告メッセージが生成されます。
- Windows プラットフォームでは、インスタンスを 12c にアップグレードする前に、インスタンスのショートカットを手動で削除する必要があります。サイレント・インストーラはショートカット・リンクがどこに作成されたのかを判別できないため、結果として、どのような場合でも古いショートカットを処理できません。
- iBSE を管理対象モードで構成した場合は、次の Stage_Folder から *ibseconfig.xml* ファイルのバックアップを作成し、一時的な場所に保存する必要があります。

```
<ORACLE11g_HOME>\user_projects\domains\<domain_name>\servers\<Managed_Server_Name>\stage\ibse\ibse.war\WEB-INF
```

2.3.3.2 サイレント・インストーラの使用

サイレント・インストーラを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Windows プラットフォームで、*silent_windows_install.properties* というプロパティ・ファイルを作成します。
2. この *silent_windows_install.properties* ファイルに次の内容を追加します。

```
#-----
#これはサイレント・インストールのプロパティ・ファイルのサンプルです。パネル、コンソール、またはカスタム・コードによって設定された変数が格納されます。
```

```

# インストール環境に従ってプロパティの値を変更できます。
# サイレント・インストールを実行するには、次のようにしてプロパティ・ファイルをインストーラの実行可能ファイルに渡す必要があります。
# >installer.exe -f silent_install.properties

# サイレント・モードを示します。コマンド・ラインの "-i silent" スイッチを使用する必要はありません。
#-----
INSTALLER_UI=silent

#Oracle ホーム・フォルダの選択
#-----
USER_ORA_HOME=C:\12c_HOME\soa

CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1

# ショートカット・フォルダの選択
#-----
USER_SHORTCUTS=C:\Documents and Settings\All Users\Start
Menu\Programs\Oracle Application Adapters
#-----

```

3. `silent_windows_install.properties` ファイルを保存します。

注意： Windows 以外のプラットフォームでは、`silent_unix_install.properties` というプロパティ・ファイルを、次の内容で作成します。

```

#-----
# これはサイレント・インストールのプロパティ・ファイルのサンプルです。パネル、コンソール、またはカスタム・コードによって設定された変数が格納されます。
# インストール環境に従ってプロパティの値を変更できます。
# サイレント・インストールを実行するには、次のようにしてプロパティ・ファイルをインストーラの実行可能ファイルに渡す必要があります。
# >installer.exe -f silent_install.properties

# サイレント・モードを示します。コマンド・ラインの "-i silent" スイッチを使用する必要はありません。
#-----
INSTALLER_UI=silent

#Oracle ホーム・フォルダの選択
#-----
USER_ORA_HOME=/12c_HOME/soa

CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1
#-----

```

4. `#Oracle ホーム・フォルダの選択`の項を探して、SOA または OSB のホーム・ディレクトリの宛先を指定します。次に例を示します。

```

#Oracle ホーム・フォルダの選択
#-----
USER_ORA_HOME=C:\12c_HOME\soa

```

5. `CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータを探し、次のガイドラインに基づいて設定を記述します。

- このパラメータのデフォルトの設定は次のとおりです。

```
CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=1
```

指定した SOA または OSB のホーム・ディレクトリにすでにインストールが存在する場合、既存のインストールを変更せずにサイレント・インストールは終了します。警告メッセージが表示されないため、この機能によって既存のインストールを誤って上書きすることを防ぎます。

- 既存のインストールをアップグレードするには、このパラメータを次のように設定します。

```
CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON=0
```

注意： 指定した SOA または OSB のホーム・ディレクトリに既存のインストールが存在しない場合は、`CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータに設定されている値は無視されます。サイレント・インストーラでは標準のインストールが実行されます。

6. 必要な場合は、# ショートカット・フォルダの選択の項を変更することで、ショートカット・フォルダの場所も変更できます。次に例を示します。

```
# ショートカット・フォルダの選択
#-----
USER_SHORTCUTS=C:\\Documents and Settings\\All Users\\Start
Menu\\Programs\\Oracle Application Adapters
```

注意： # ショートカット・フォルダの選択の項は、Windows 以外のプラットフォームには適用されません。このため、Windows 以外のバージョンのサイレント・インストーラのプロパティ・ファイルでは、この項は使用できません。

7. `silent_windows_install.properties` ファイルを保存します。
8. `silent_windows_install.properties` ファイルが、12c のインストーラがあるフォルダで使用できることを確認します。存在しない場合は、このファイルを適切な場所にコピーする必要があります。
9. コマンド・プロンプトで、12c インストーラのディレクトリに移動し、次のインストール・コマンドを入力します。

```
iwora12c_application-adapters_win.exe -f silent_windows_install.properties
```

`CHOSEN_OVERWRITE_DIALOG_BUTTON` パラメータに設定された値に基づいて、アップグレード・インストールが実行されます。

サイレント・インストーラを使用してアダプタをアップグレードする場合は、2-13 ページ 2.3.4.3 項「AIX プラットフォームでの DB2 リポジトリの使用」の手順を実行します。

2.3.4 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアップグレード

Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、この項での説明に従って Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードできます。12c リリースをインストールする前に、PS6 リリースをアンインストールする必要はありません。アダプタをアップグレードすると、インストーラによってアダプタのコンポーネント (jar ファイル、スク

リポート、ツールなど)が上書きされます。ただし、以前のリリースを使用して生成された WSDL ファイルおよびスキーマ・ファイルがある場合、それらのファイルがインストーラによって削除されることはありません。

注意： アダプタをインストールする前に、WebLogic Server、SOA Suite、BPM、OSB などの Oracle ミドルウェア・コンポーネントを 12c リリース・レベルにアップグレードする必要があります。また、アダプタをインストールする前に、SOA Suite、BPM、OSB プロジェクトを 12c リリース・レベルにアップグレードする必要があります。

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- [2.3.4.1 項「前提条件」](#)
- [2.3.4.2 項「アダプタのアップグレード」](#)
- [2.3.4.3 項「AIX プラットフォームでの DB2 リポジトリの使用」](#)

2.3.4.1 前提条件

次のリストに、アップグレード・インストールの前提条件を示します。

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、実行中のすべてのサーバー (管理および管理対象) を停止します。実行中のサーバーがあると、アップグレードが完了せず、警告メッセージが生成されます。

- Windows プラットフォームでは、インスタンスを 12c にアップグレードする前に、インスタンスのショートカットを手動で削除する必要があります。
- iBSE を管理対象モードで構成した場合は、次の Stage_Folder から *ibseconfig.xml* ファイルのバックアップを作成し、一時的な場所に保存する必要があります。

```
<ORACLE11g_HOME>\user_projects\domains\<domain_name>\servers\<Managed_Server_Name>\stage\ibse\ibse.war\WEB-INF
```

注意： Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードする前に、既存のインストールのバックアップを作成する必要があります。また、インストーラによってバックアップが作成され、次の場所にコピーされます。

SOA の場合：

```
<ORACLE11g_HOME>\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Old_ApplicationAdapters_Backup_Copy
```

OSB の場合：

```
<ORACLE11g_HOME>\Oracle_OSB1\3rdparty\Old_ApplicationAdapters_Backup_Copy
```

2.3.4.2 アダプタのアップグレード

Oracle Fusion Middleware Application Adapters をアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトまたはターミナルを開き、システム上のインストール・ファイルがある場所へ移動して、プラットフォームに対応したインストーラを開始します。
 - **Windows:** `iwora12c_application-adapters_win.exe`
 - **Linux:** `iwora12c_application-adapters_linux.bin`
 - **Solaris:** `iwora12c_application-adapters_solaris.bin`
 - **HPUX:** `iwora12c_application-adapters_hpux.bin`
 - **AIX:** `iwora12c_application-adapters_aix.bin`

次の例は、Windows および Windows 以外のプラットフォームでインストーラを実行する方法を示します。

Windows プラットフォーム:

オプション 1:

インストーラがあるフォルダに移動し、`.exe` ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダに移動して、`.exe` ファイルを実行します。

Windows 以外のプラットフォーム:

コマンド・プロンプトで、インストーラがあるフォルダに移動して、`.bin` ファイルを実行します。

概要画面が表示されます。

注意: この手順で示す画像は、Windows インストーラでのサンプルです。インストール手順はすべてのプラットフォームで同じです。

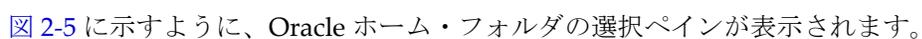
2. 「次へ」をクリックします。
 [図 2-5](#) に示すように、Oracle ホーム・フォルダの選択ペインが表示されます。

図 2-5 Oracle ホーム・フォルダの選択ペイン



- アップグレードする適切な Oracle のホームの場所を選択します。

SOA の場合 :

<ORACLE11g_HOME>\Oracle_SOA1

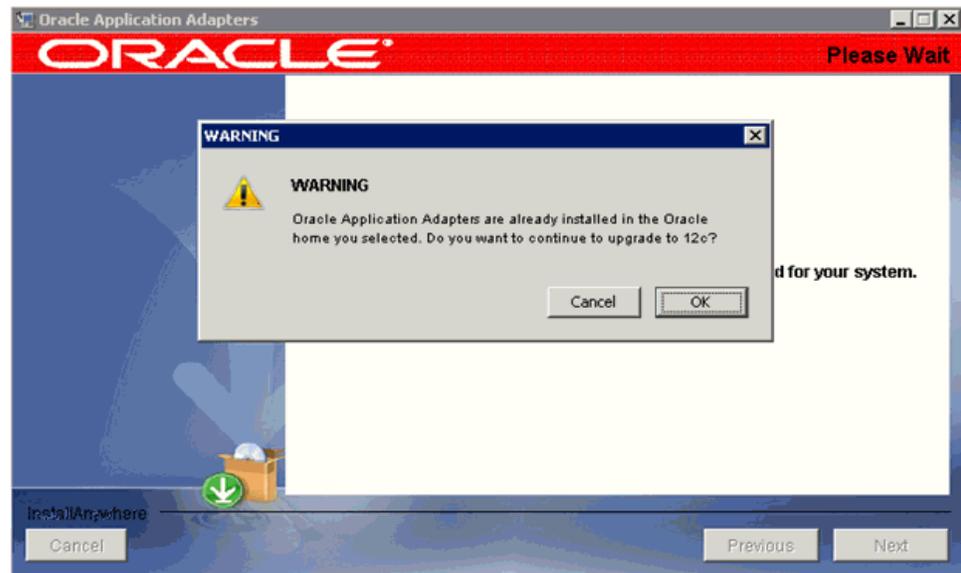
OSB の場合 :

<ORACLE11g_HOME>\Oracle_OSB1

- 「次へ」をクリックします。

図 2-6 に示すように、警告メッセージが表示されます。

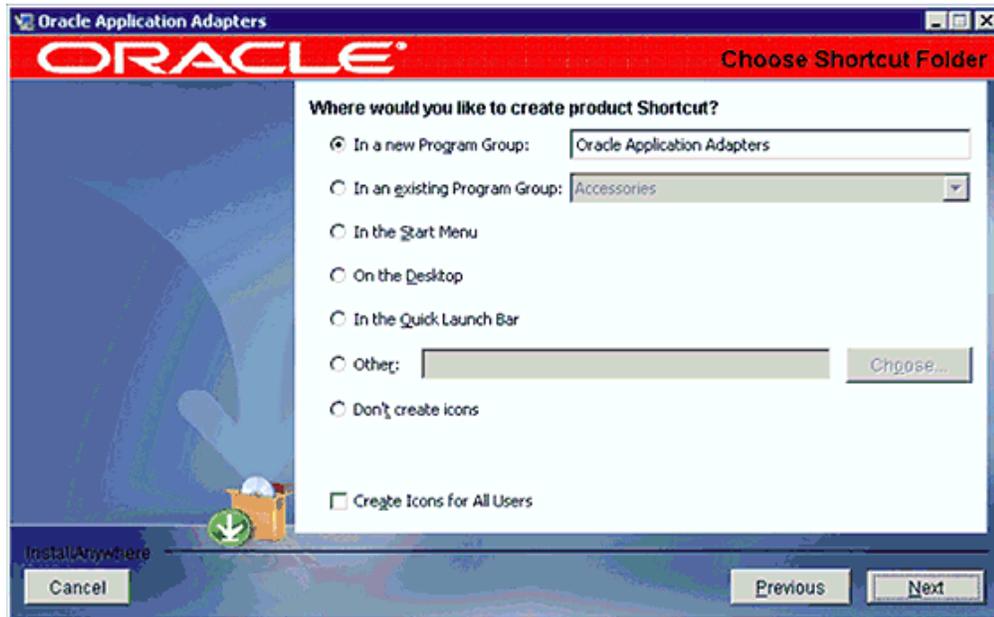
図 2-6 警告メッセージ



5. 「OK」をクリックして続行します。

図 2-7 に示すように、ショートカット・フォルダの選択ペインが表示されます。

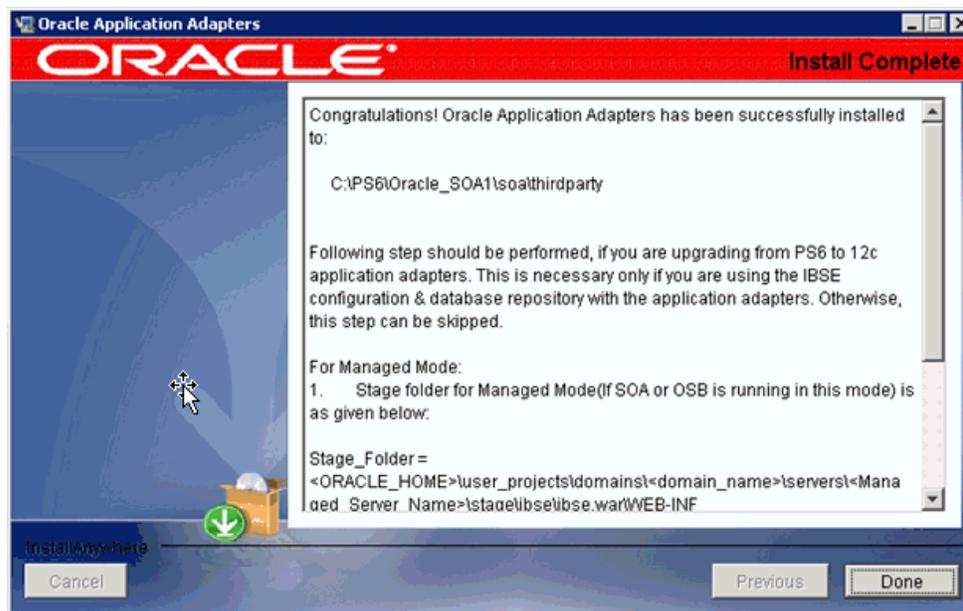
図 2-7 ショートカット・フォルダの選択ペイン



注意： このステップは Windows プラットフォームにのみ該当します。Windows プラットフォームでのアップグレードではない場合、このステップを省略できます。

6. 「次へ」をクリックします。
インストール前のサマリー画面が表示されます。
7. すべての情報が正しいことを確認し、「インストール」をクリックします。
インストール・プロセスが開始されます。既存のアダプタ・インストールの自動バックアップが作成され、アダプタがアップグレードされます。
8. インストールが完了したら、図 2-8 に示すように、アダプタのインストール先を確認し、「完了」をクリックします。

図 2-8 インストール完了ペイン



2.3.4.3 AIX プラットフォームでの DB2 リポジトリの使用

DB2 リポジトリを使用している AIX プラットフォームでアダプタをアップグレードした場合は、この項での説明に従って *ra.xml* ファイルを変更する必要があります。

次のディレクトリにある *ra.xml* に移動します。

```
<ORACLE11G_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

IWayRepoDriver プロパティについて、デフォルトのドライバ値を DB2 ドライバ値 (com.ibm.db2.jcc.DB2Driver) に置き換えます。

元のバージョン:

```
<config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
<config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</config-property-value>
```

変更後のバージョン:

```
<config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
<config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>com.ibm.db2.jcc.DB2Driver</config-property-value>
```

この項で示す手順は、次のシナリオに該当する場合にのみ実行します。

- 以前のサポート対象バージョンの Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server から 12c (12.1.3.0.0) バージョンにアップグレードする場合。
- アプリケーション・アダプタに対応したデータベース・リポジトリを使用する iBSE 構成の場合。

それ以外の場合は、残りのステップを省略できます。

管理対象モードの場合:

1. 以前のサポート対象バージョンに 12c のアプリケーション・アダプタをインストールした後に、<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\ディレクトリの

`ibseconfig.xml` ファイルを、前提条件のステップで説明した一時的な場所に置かれている `ibseconfig.xml` ファイルで置き換えます。

注意： アダプタのアップグレード・プロセスを完了するには、次のいずれかのオプションを実行する必要があります。

オプション 1:

Oracle WebLogic Server を開始し、J2CA と BSE のアダプタ・コンポーネント (`iwafjca.rar`、`iwafjca.war`、`ibse.war`) を更新して、変更をアクティブ化します。アダプタの更新に関する詳細は、2-35 ページ 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」を参照してください。

オプション 2:

Oracle WebLogic Server を再起動し、`iwafjca.rar`、`iwafjca.war`、`ibse.war` の各ファイルをアンデプロイしてから再デプロイします。

J2CA および BSE のアダプタ・コンポーネントのデプロイに関する詳細は、次の項を参照してください。

- 2.5.3 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ」
- 2.5.4 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ」
- 2.6.2 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ」

アダプタのデプロイと再デプロイにスクリプトが必要な場合は、2-35 ページ 2.7 項「ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新」を参照してください。

2.3.5 アプリケーション・エクスペローラの起動

この項では、アプリケーション・エクスペローラを起動する方法について説明します。

Windows 以外の 64 ビット環境での 64 ビット Java の使用

Windows 以外の 64 ビット環境でアプリケーション・エクスペローラに 64 ビット Java を強制的に使用させるには、`iwae.sh` ファイルに後述の変更を加えます。このファイルは、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>/tools/iwae/bin
```

`iwae.sh` ファイル内で、スクリプトの末尾に移動し、次の変更を加えます。

元のバージョン:

```
$JAVACMD $remdbg -classpath $CLASSPATH -Diway.home=$IWAY55 -Diway.oem=osb
-DsuppressSwingDropSupport=true -Dfile.encoding=ISO8859_1
com.ibi.bse.gui.BseFlashScreen -D64 -MODE 2 $opt
```

変更後のバージョン:

```
$JAVACMD -d64 $remdbg -classpath $CLASSPATH -Diway.home=$IWAY55 -Diway.oem=osb
-DsuppressSwingDropSupport=true -Dfile.encoding=ISO8859_1
```

```
com.ibi.bse.gui.BseFlashScreen -D64 -MODE 2 $opt
```

アプリケーション・エクスプローラを起動および使用開始するには、次の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトを開きます。

2. 次のディレクトリに移動します。

```
<ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\bin
```

3. *setDomainEnv.cmd* (Windows) または *./setDomainEnv.sh* (UNIX/Linux) を実行します。

このコマンドにより、Oracle WebLogic Server 環境でのアプリケーション・エクスプローラ用のクラス・パスおよびその他の環境変数が設定されます。また、アプリケーション・エクスプローラが Oracle WebLogic Server API にアクセスして WSDL ファイルを Oracle Service Bus (OSB) コンソールに公開できるようになります。

4. コマンド・プロンプトを閉じないでください。

5. 次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに移動します。

```
<ADAPTER_HOME>\tools\iwaie\bin
```

6. *ae.bat* (Windows) または *iwaie.sh* (UNIX/Linux) を実行して、アプリケーション・エクスプローラを起動します。

2.4 Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスプローラの構成

アプリケーション・エクスプローラを使用して WSDL ファイルを生成するには、構成の詳細が格納されるリポジトリを作成する必要があります。エンタープライズ情報システム (EIS) のメタデータを調べるには、実装ごとに特定のリポジトリを構成しておく必要があります。リポジトリ内の情報も実行時に参照されます。

Business Services Engine (BSE) では、使用するプログラミング言語やオペレーティング・システムに関係なくアダプタからアクセス可能な Web サービスが、企業資産に基づいて生成されます。また、Oracle WebLogic Server で稼働するスタンドアロン Java アプリケーションとして、BSE を使用することもできます。

J2CA は、J2EE Connector Architecture 準拠のアプリケーション・サーバーで稼働し、Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server を使用した統合サービスを提供するために、Common Client Interface (CCI) を使用します。コネクタをデプロイした後、アダプタにアクセスできます。

2.4.1 Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine の構成の作成

アプリケーション・エクスプローラを作成して Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の構成を作成するには、まず新規構成を定義する必要があります。これは、BSE を Oracle WebLogic Server に Web アプリケーションとしてデプロイするための前提条件です。

BSE の新規構成の定義

BSE の新規構成を定義するには、次の手順を実行します。

1. 2-14 ページ「[アプリケーション・エクスプローラの起動](#)」の手順に従います。

注意： UNIX または Linux プラットフォームで `iwae.sh` ファイルを実行する前に、権限を変更する必要があります。次に例を示します。

```
chmod +x iwae.sh
```

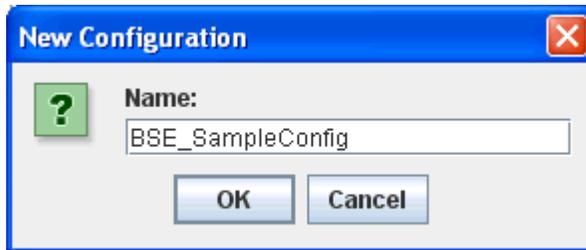
2. 図 2-9 に示すように、アプリケーション・エクスプローラで「構成」ノードを右クリックし、「新規」を選択します。

図 2-9 「構成」ノード



図 2-10 に示すように、「新規構成」ダイアログが表示されます。

図 2-10 「新規構成」ダイアログ



3. 新規構成の名前 (例: `BSE_SampleConfig`) を入力し、「OK」をクリックします。

注意： ここで指定した BSE 構成の名前は、BSE デプロイメント・プロセス時に使用されます。

図 2-11 BSE の「新規構成」ダイアログ



4. 「サービス・プロバイダ」リストから **iBSE** を選択します。

5. 「iBSE URL」フィールドでデフォルト URL を受け入れるか、次の書式の別の URL に置き換えます。

```
http://host name:port/ibse/IBSEServlet
```

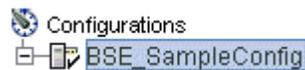
ここで、*host name* は Oracle WebLogic Server が存在するシステムを表し、*port* は Oracle WebLogic Server がリスニングする HTTP ポート番号を表します。[図 2-11](#) を参照してください。

注意： HTTP ポート番号はインストール・タイプ (Oracle SOA Suite または Oracle Service Bus) によって異なります。

6. 「OK」をクリックします。

[図 2-12](#) に示すように、ルートの「構成」ノードの下に新規構成を表すノードが表示されます。

図 2-12 BSE_SampleConfig ノード



2.4.2 Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture の構成の作成

アプリケーション・エクスプローラを作成して Oracle WebLogic Server Adapter J2EE Connector Architecture (J2CA) の構成を作成するには、まず新規構成を定義する必要があります。これは、J2CA を Oracle WebLogic Server に Web アプリケーションとしてデプロイするための前提条件です。

J2CA の新規構成の定義

J2CA の新規構成を定義するには、次の手順を実行します。

1. 2-14 ページ「アプリケーション・エクスプローラの起動」の手順に従います。

注意： UNIX または Linux プラットフォームで *iwae.sh* ファイルを実行する前に、権限を変更する必要があります。次に例を示します。

```
chmod +x iwae.sh
```

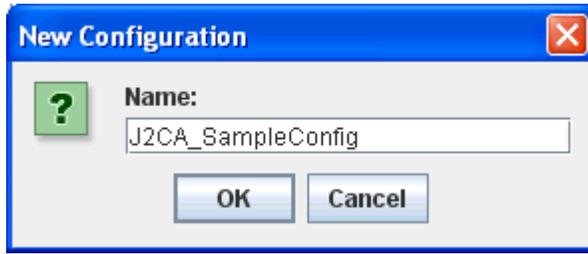
2. [図 2-13](#) に示すように、アプリケーション・エクスプローラで「構成」ノードを右クリックし、「新規」を選択します。

図 2-13 アプリケーション・エクスプローラの「構成」ノード



[図 2-14](#) に示すように、「新規構成」ダイアログが表示されます。

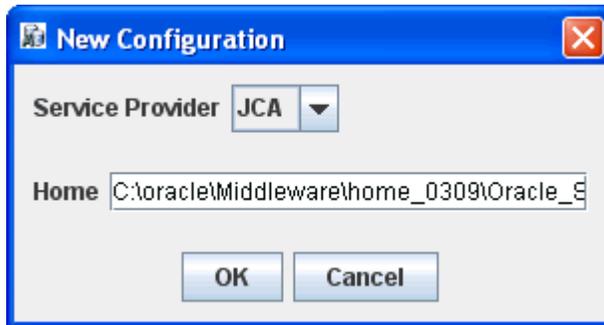
図 2-14 J2CA の新規構成名



3. 新規構成の名前 (例: `J2CA_SampleConfig`) を入力し、「OK」をクリックします。

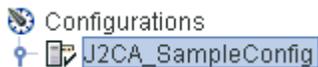
注意： ここで指定した J2CA 構成の名前は、J2CA デプロイメント・プロセス時に使用されます。

図 2-15 J2CA の「新規構成」ダイアログ



4. 図 2-15 に示すように、「サービス・プロバイダ」リストから **JCA** を選択します。
 5. 「OK」をクリックします。
- 図 2-16 に示すように、ルート of 「構成」 ノードの下に新規構成を表すノードが表示されます。

図 2-16 サンプル J2CA 構成ノード



2.5 J2CA の構成およびデプロイ

要件に応じて適切な設定を構成した後は、まず、Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用して、Oracle WebLogic Server で使用する J2CA Connector Application をデプロイする必要があります。J2CA コネクタ・アプリケーションが正常にデプロイされたら、J2CA Installation Verification Program (IVP) を構成してデプロイすることができます。この項では、J2CA コネクタ・アプリケーションおよび J2CA Installation Verification Program (IVP) の設定を構成する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 2.5.1 項「J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成」
- 2.5.2 項「J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成」

- 2.5.3 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ」
- 2.5.4 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ」
- 2.5.5 項「アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続」

2.5.1 J2CA コネクタ・アプリケーションの設定の構成

J2CA コネクタ・アプリケーションの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. 次に示す、SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにある `ra.xml` ファイルを探します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF\ra.xml
```

2. `ra.xml` ファイルをエディタで開きます。
3. `IWayHome` プロパティの値を入力します。

これは、アダプタがインストールされているフォルダです。次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayHome</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters</config-property-value>
</config-property>
```

4. `IWayConfig` プロパティの値を入力します。

これは、アプリケーション・エクスプローラで新規 J2CA 構成を作成したときに指定した値です。次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayConfig</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>J2CA_SampleConfig</config-property-value>
</config-property>
```

5. SAP 接続プーリングを使用する場合は、`ShareJCO` プロパティに値 `true` を入力します。使用しない場合は、このプロパティの値はデフォルト値のままにします。

次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>ShareJCO</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>true</config-property-value>
</config-property>
```

SAP 接続プーリングの詳細は、*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for SAP R/3 (SAP JCo 3.0) ユーザーズ・ガイドの接続プーリングに関する項*を参照してください。

6. `ra.xml` ファイルを保存して、エディタを終了します。

2.5.2 J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理の構成

J2CA コネクタ・アプリケーションのログ・ファイル管理は、`ra.xml` ファイルの構成によって制御されます。LogLevel、LogSize、LogCount などのプロパティは、構成する必要がある実際のパラメータです。

次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>LogLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>DEBUG</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>LogSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>100000</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>LogCount</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>
```

LogLevel は、ログ・ファイルに表示するログのレベルを指定します。LogLevel の有効な値として、DEBUG、INFO、ERROR、FATAL、WARN があります。開発およびテスト環境の優先ログ・レベルは DEBUG で、このレベルではログの詳細がすべて表示されます。本番環境の優先ログ・レベルは ERROR です。

次の表に、*ra.xml* ファイルでの対応する LogLevel プロパティの設定に基づいて、J2CA ログで LogLevel プロパティがどのように更新されるのかを示します。

ra.xml で設定される LogLevel	J2CA ログで更新される LogLevel
DEBUG	FINEST
ERROR	SEVERE
WARN	WARNING
INFO	INFO

LogSize は、ログ・ファイルのサイズを制御するパラメータです。サイズはバイト単位で指定する必要があります。

LogCount は、必要なログ・ファイルの数を制御するパラメータです。このパラメータの値は整数で指定する必要があります。生成されるログ・ファイル数が指定した数を超えることはなく、生成済のファイル内でのみログのロールオーバーが発生します。

ログ・ファイルは <ADAPTER_HOME>\config\xxxxxxx\log フォルダの下に作成されます。ここで xxxxxxx は、アプリケーション・エクスペローラで作成した J2CA 構成の名前です。アプリケーション・エクスペローラに含まれる各 J2CA 構成に対して、その名前が付いた J2CA 構成フォルダの下に対応するログ・フォルダが作成されます。

インバウンド処理かアウトバウンド処理かに関係なく、すべてのログ情報は、*iwafjcaxxxx.log* ネーミング規則によるファイルに格納されます。アウトバウンド処理のログは、*iwafjcaxx.log* の書式 (例: *iwafjca00.log*) で更新されます。インバウンド処理のログは、*iwafjca15xx.log* の書式 (例: *iwafjca1500.log*) で更新されます。

アウトバウンド処理がデプロイされると、すべての現行ログが *iwafjca00.log* ファイル内で更新されます。このファイルが最大ログ・ファイル・サイズに達すると、ファイルは *iwafjca10.log* として保存され、引き続き *iwafjca00.log* に新しいアクティビティが記録されます。*iwafjca00.log* が再び最大ログ・ファイル・サイ

ズに達した場合、このファイルが `iwafjca10.log` として保存され、その前のログ・ファイル (`iwafjca10.log`) が `iwafjca20.log` として保存されます。

新しいログ・ファイルはすべて、`ra.xml` ファイルの `LogCount` パラメータに指定された値に基づいて、この方法で作成されます。ログ・ファイルが最大ログ・ファイル・サイズ (`LogSize`) と最大ログ・ファイル数 (`LogCount`) に達すると、最初に作成されたログ・ファイルにログが上書きされます。たとえば、`LogSize` を 100000 に設定し、`LogCount` を 5 に設定している場合、最大サイズが 100000 である 5 個のファイルが、まず `iwafjca00.log`、`iwafjca10.log`、`iwafjca20.log`、`iwafjca30.log`、`iwafjca40.log` として作成されます。`iwafjca00.log` ファイルが最大サイズに達すると、`iwafjca40.log` ファイルの内容が `iwafjca30.log` で置換され、以降の他のログ・ファイルでも置換が行われます。インバウンド処理の J2CA ログ・ファイル管理も、同じ動作に従います。

2.5.3 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ

J2CA コネクタ・アプリケーションをデプロイするには、次の手順に従います。

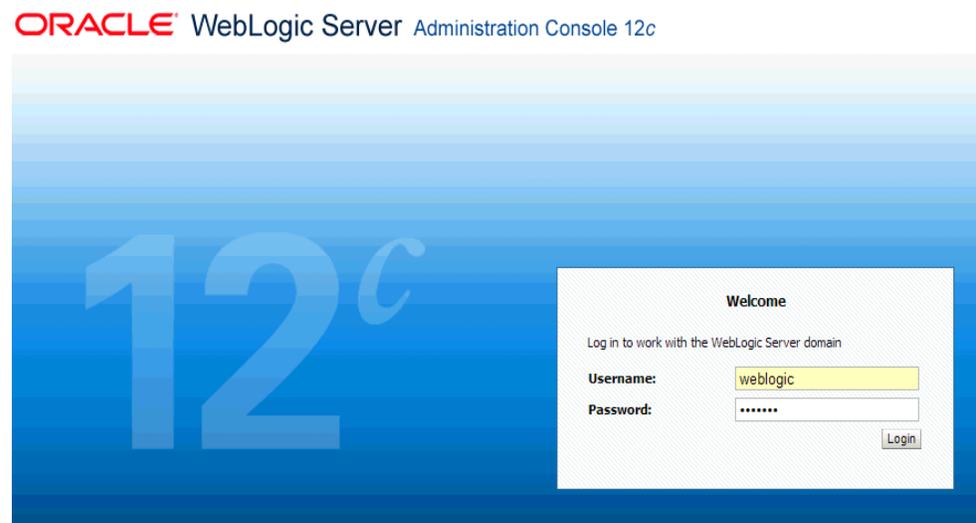
1. 構成した Oracle WebLogic Server ドメインの Oracle WebLogic Server を起動します。
2. 次の URL を入力して、Web ブラウザで Oracle WebLogic Server 管理コンソールを開きます。

```
http://host name:port/console
```

ここで、`host name` は Oracle WebLogic Server が稼働しているシステムの名前を表し、`port` は稼働している Oracle WebLogic Server のポートを表します。Oracle WebLogic Server のデフォルトのポートは 7001 です。ただし、この値はインストールによって異なる可能性があります。

図 2-17 に示すように、Oracle WebLogic Server 管理コンソールのページが表示されます。

図 2-17 Oracle WebLogic Server 管理コンソール



3. 管理者権限を持つアカウントを使用して、Oracle WebLogic Server 管理コンソールにログインします。

図 2-18 に示すように、Oracle WebLogic Server 管理コンソールの「ホーム」ページが表示されます。

図 2-18 Oracle WebLogic Server 管理コンソールの「ホーム」ページ



4. 左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

図 2-19 に示すように、「デプロイメント」ページが表示されます。

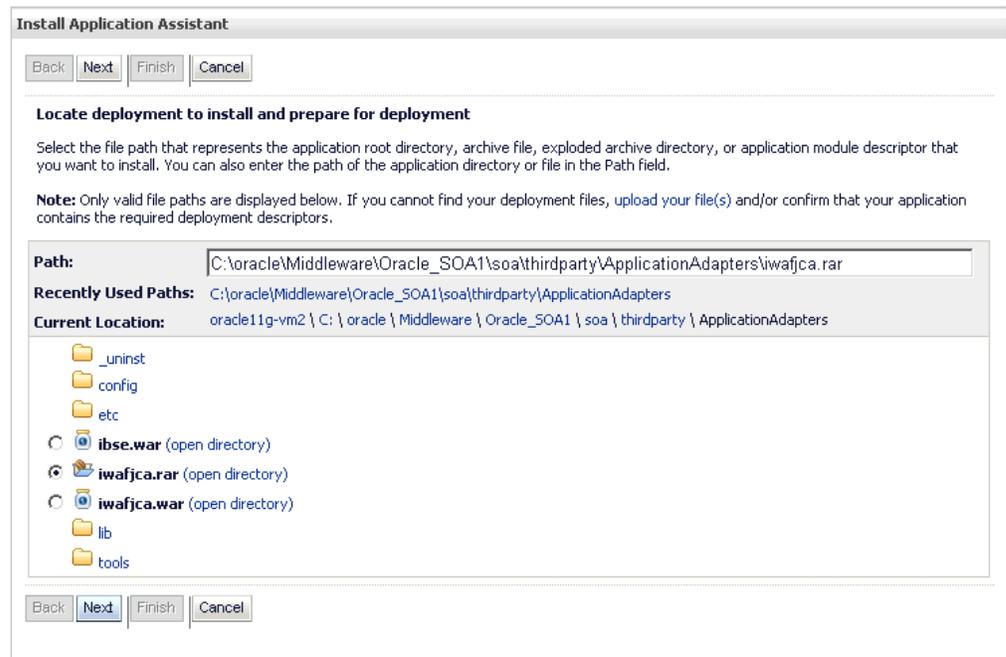
図 2-19 「デプロイメント」ページ

Deployments					
<input type="button" value="Install"/> <input type="button" value="Update"/> <input type="button" value="Delete"/> <input type="button" value="Start"/> <input type="button" value="Stop"/>					
Showing 1 to 24 of 24 Previous Next					
<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313

5. 「インストール」をクリックします。

図 2-20 に示すように、「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されます。

図 2-20 「アプリケーション・インストール・アシスタント」 ページ



6. アダプタがインストールされている場所である <ADAPTER_HOME> を参照します。

- SOA の場合:

<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters

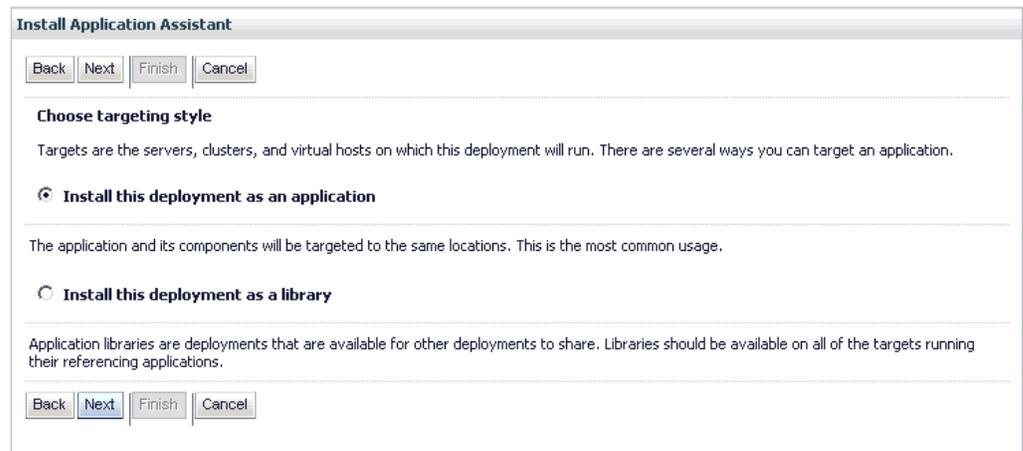
- OSB の場合:

<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters

7. iwafjca.rar オプションを選択し、「次」をクリックします。

図 2-21 に示すように、「ターゲット指定スタイルの選択」 ページが表示されます。

図 2-21 「ターゲット指定スタイルの選択」 ページ



8. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」を選択したままにして、「次」をクリックします。

図 2-22 に示すように、「デプロイ・ターゲットの選択」ページが表示されます。

図 2-22 「デプロイ・ターゲットの選択」ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Select deployment targets

Select the servers and/or clusters to which you want to deploy this application. (You can reconfigure deployment targets later).

Available targets for iwafjca :

Servers
<input type="checkbox"/> AdminServer
<input checked="" type="checkbox"/> soa_server1

Back Next Finish Cancel

9. soa_server1 を選択し、「次」をクリックします。

図 2-23 に示すように、「オプション設定」ページが表示されます。

図 2-23 「オプション設定」ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Optional Settings

You can modify these settings or accept the defaults

General

What do you want to name this deployment?

Name: iwafjca

Source accessibility

How should the source files be made accessible?

Use the defaults defined by the deployment's targets

Recommended selection.

Copy this application onto every target for me

During deployment, the files will be copied automatically to the managed servers to which the application is targeted.

I will make the deployment accessible from the following location

Location: C:\oracle\Middleware\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Applic

Provide the location from where all targets will access this application's files. This is often a shared directory. You must ensure the application files exist in this location and that each target can reach the location.

Back Next Finish Cancel

10. デフォルト値のままでもう一度「次」をクリックします。

図 2-24 に示すように、「サマリー」ページが表示されます。

図 2-24 「サマリー」 ページ

Summary

Deployment: C:\oracle\Middleware\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\iwafjca.rar

Name: iwafjca

Staging mode: Use the defaults defined by the chosen targets

Target Summary

Components	Targets
iwafjca.rar	soa_server1

Back Next Finish Cancel

11. 「終了」をクリックします。

J2CA (iwafjca) コネクタ・アプリケーションの「設定」ページが表示されます。

12. 「保存」をクリックします。

デプロイメントが成功したことを示す「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。

13. 左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「変更のアクティブ化」をクリックします。

14. 図 2-25 に示すように、左ペインの「ドメイン構造」セクションにある「デプロイメント」をクリックします。

図 2-25 「ドメイン構造」

Change Center

View changes and restarts

Pending changes exist. They must be activated to take effect.

Activate Changes

Undo All Changes

Domain Structure

base_domain

- Environment
- Deployments
- Services
- Security Realms
- Interoperability

Home Log Out Preferences Record Help

Home > Summary of Deployments > base_domain > Summary of Deployments > iwafjca > Summary of Deployments > iwafjca

Messages

Settings updated successfully.

Settings for iwafjca

Overview Deployment Plan Configuration Security Targets Control Testing Monitoring Notes

Save

This page displays basic information about this resource adapter deployment.

Name: iwafjca

15. 図 2-26 に示すように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表をナビゲートして J2CA (iwafjca) コネクタ・アプリケーションを探します。

図 2-26 「デプロイメント」 ページ

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input type="checkbox"/>	FtpAdapter	New		Resource Adapter	325
<input checked="" type="checkbox"/>	iwafjca	Installed		Resource Adapter	100
<input type="checkbox"/>	JmsAdapter	New		Resource Adapter	323

16. iwafjca オプションを選択します。
17. 「起動」サブメニュー(下向き矢印)をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。
「アプリケーション起動アシスタント」ページが表示されます。
18. 「はい」をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。
これで、Installation Verification Program (IVP) をデプロイするための準備が完了しました。

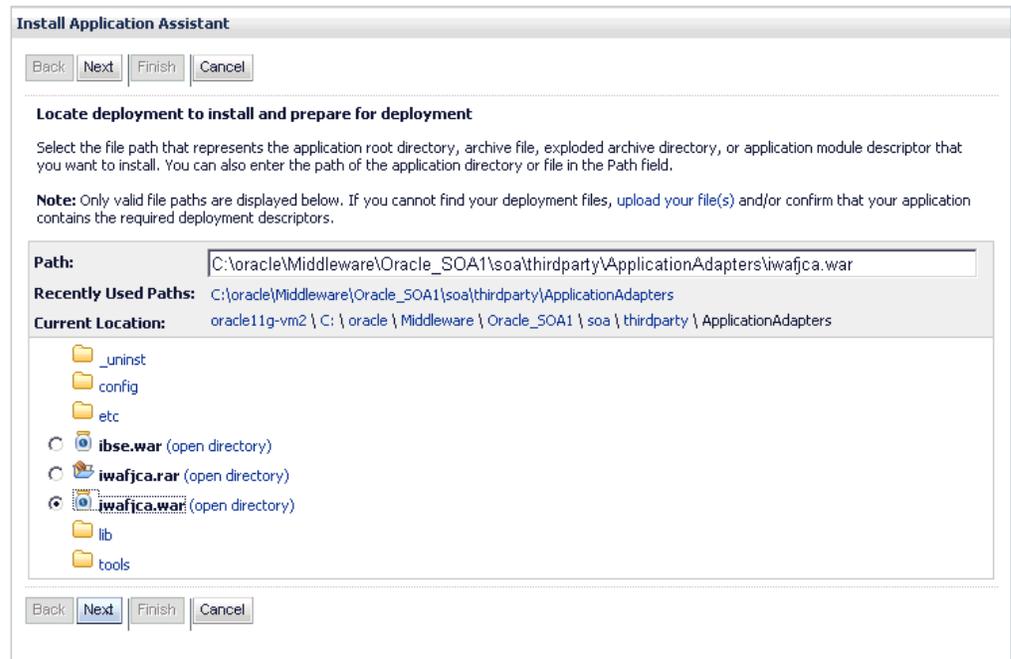
2.5.4 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した J2CA Installation Verification Program (IVP) のデプロイ

J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイおよび起動は、J2CA Installation Verification Program (IVP) の後に行う必要があります。J2CA IVP をデプロイするときは、デプロイ順序も変更することをお勧めします。たとえば、J2CA コネクタ・アプリケーションのデプロイ順序が 100 の場合、J2CA IVP のデプロイ順序を 101 にします。

J2CA IVP をデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。
「デプロイメント」ページが表示されます。
2. 「インストール」をクリックします。
図 2-27 に示すように、「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されます。

図 2-27 アプリケーション・インストール・アシスタント



3. アダプタがインストールされている場所である <ADAPTER_HOME> を参照します。
 - SOA の場合 :


```
<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters
```
 - OSB の場合 :


```
<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters
```
4. iwafjca.war オプションを選択し、「次」をクリックします。
「ターゲット指定スタイルの選択」ページが表示されます。
5. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」を選択したままにして、「次」をクリックします。
図 2-28 に示すように、「デプロイ・ターゲットの選択」ページが表示されます。

図 2-28 「デプロイ・ターゲットの選択」 ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Select deployment targets

Select the servers and/or clusters to which you want to deploy this application. (You can reconfigure deployment targets later).

Available targets for iwafjca :

Servers	
<input type="checkbox"/>	AdminServer
<input checked="" type="checkbox"/>	soa_server1

Back Next Finish Cancel

6. soa_server1 を選択し、「次」をクリックします。
 図 2-29 に示すように、「オプション設定」 ページが表示されます。

図 2-29 「オプション設定」 ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Optional Settings

You can modify these settings or accept the defaults

General

What do you want to name this deployment?

Name:

Security

What security model do you want to use with this application?

DD Only: Use only roles and policies that are defined in the deployment descriptors.

Custom Roles: Use roles that are defined in the Administration Console; use policies that are defined in the deployment descriptor.

Custom Roles and Policies: Use only roles and policies that are defined in the Administration Console.

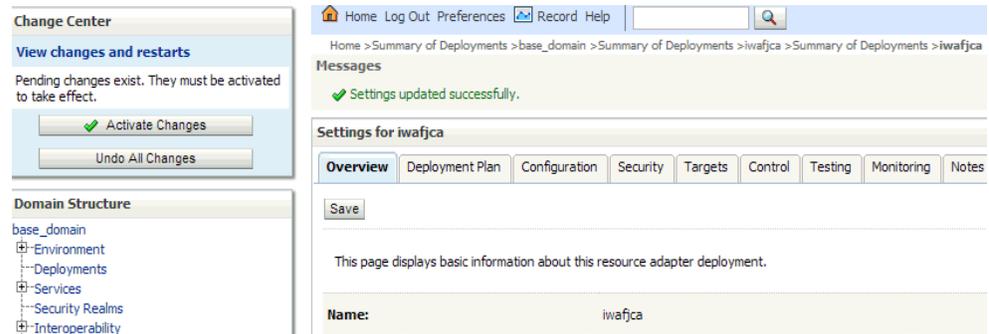
Advanced: Use a custom model that you have configured on the realm's configuration page.

Source accessibility

7. 「名前」 フィールドに次のように入力します。
iwafjcatest
8. 「次」をクリックし、その他はデフォルト値のままにします。
「サマリー」 ページが表示されます。
9. 「終了」をクリックします。
J2CA Installation Verification Program (IVP) の「設定」 ページが表示されます。
10. 「保存」をクリックします。
デプロイメントが成功したことを示す「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。

11. 図 2-30 に示すように、左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「変更のアクティブ化」をクリックします。

図 2-30 チェンジ・センター



12. 左ペインの「ドメイン構造」セクションにある「デプロイメント」をクリックします。
13. 図 2-31 に示すように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表をナビゲートして J2CA (iwafjcatest) Installation Verification Program (IVP) を探します。

図 2-31 「デプロイメント」ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop Showing 1 to 26 of 26 Previous Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input type="checkbox"/>	FtpAdapter	New		Resource Adapter	325
<input type="checkbox"/>	iwafjca	New		Resource Adapter	100
<input checked="" type="checkbox"/>	iwafjcatest	distribute Initializing		Web Application	100
<input type="checkbox"/>	JmsAdapter	New		Resource Adapter	323

14. iwafjcatest オプションを選択します。
15. 「起動」サブメニュー(下向き矢印)をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。
- 「アプリケーション起動アシスタント」ページが表示されます。

16. 「はい」をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。

これで、J2CA (iwafjcatest) Installation Verification Program (IVP) は正常に Oracle WebLogic Server にデプロイされました。

アプリケーション・エクスプローラを使用してアダプタ・ターゲットを作成した後、これらのターゲットを選択して Oracle J2CA テスト・サーブレットからのアウトバウンド接続をテストできます。

注意： アプリケーション・エクスプローラを使用してアダプタ・ターゲットを作成した後、Oracle WebLogic Server を再起動する必要があります。

2.5.5 アプリケーション・エクスプローラを使用した J2CA 構成への接続

新規 J2CA 構成に接続するには、次の手順を実行します。

1. 接続先の構成を右クリックします (例: J2CA_SampleConfig)。
2. 「接続」を選択します。

アダプタおよびイベントのノードが表示されます。

注意： イベントは、J2CA 構成を使用する場合のみ構成できます。

図 2-32 に示すように、J2CA_SampleConfig という名前の J2CA 構成の例が表示されます。

図 2-32 サンプル J2CA 構成ノード



- 「アダプタ」ノードを使用して、アダプタとのインバウンド相互作用を作成します。
- 「イベント」ノードを使用して、イベントをリスニングするリスナーを構成します。

インストール後のタスクを完了したら、Oracle Fusion Middleware Application Adapters の新しいターゲットを定義できます。ターゲットの構成に関する詳細は、対応するアダプタのユーザー・ガイドを参照してください。

2.6 Business Services Engine の構成およびデプロイ

要件に応じて適切な設定を構成した後は、Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用して、Oracle WebLogic Server で使用する BSE をデプロイする必要があります。この項では、Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定を構成する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 2.6.1 項「Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成」
- 2.6.2 項「Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ」

- 2.6.3 項「アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続」

2.6.1 Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) の設定の構成

BSE の設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. 次に示す、SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにある `web.xml` ファイルを探します。

```
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\web.xml
```

2. `web.xml` ファイルをエディタで開きます。
3. `ibseroot` パラメータの値を入力します。

これは、アダプタごとのサブディレクトリに BSE ファイルが格納されているフォルダです。次に例を示します。

```
<context-param>
  <param-name>ibseroot</param-name>
  <param-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\ibse.war</param-value>
  <description>ibse root directory</description>
</context-param>
```

4. `iway.home` パラメータの値を入力します。

これは、アダプタがインストールされているフォルダです。次に例を示します。

```
<context-param>
  <param-name>iway.home</param-name>
  <param-value>C:\oracle\Middleware\home_0309\Oracle_
SOA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters</param-value>
  <description>license file location</description>
</context-param>
```

5. `iway.config` パラメータの値を入力します。

これは、アプリケーション・エクスプローラで新規 BSE 構成を作成したときに指定した値です。次に例を示します。

```
<context-param>
  <param-name>iway.config</param-name>
  <param-value>BSE_SampleConfig</param-value>
  <description>Base Configuration</description>
</context-param>
```

6. `web.xml` ファイルを保存して、エディタを終了します。

2.6.2 Oracle WebLogic Server 管理コンソールを使用した Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine (BSE) のデプロイ

BSE をデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 構成した Oracle WebLogic Server ドメインの Oracle WebLogic Server を起動します。
2. 次の URL を入力して、Web ブラウザで Oracle WebLogic Server 管理コンソールを開きます。

```
http://host name:port/console
```

ここで、`host name` は Oracle WebLogic Server が稼働しているシステムの名前を表し、`port` は稼働している Oracle WebLogic Server のポートを表します。Oracle WebLogic Server のデフォルトのポートは 7001 です。ただし、この値はインストールによって異なる可能性があります。

3. 管理者権限を持つアカウントを使用して、Oracle WebLogic Server 管理コンソールにログインします。

Oracle WebLogic Server 管理コンソールの「ホーム」ページが表示されます。

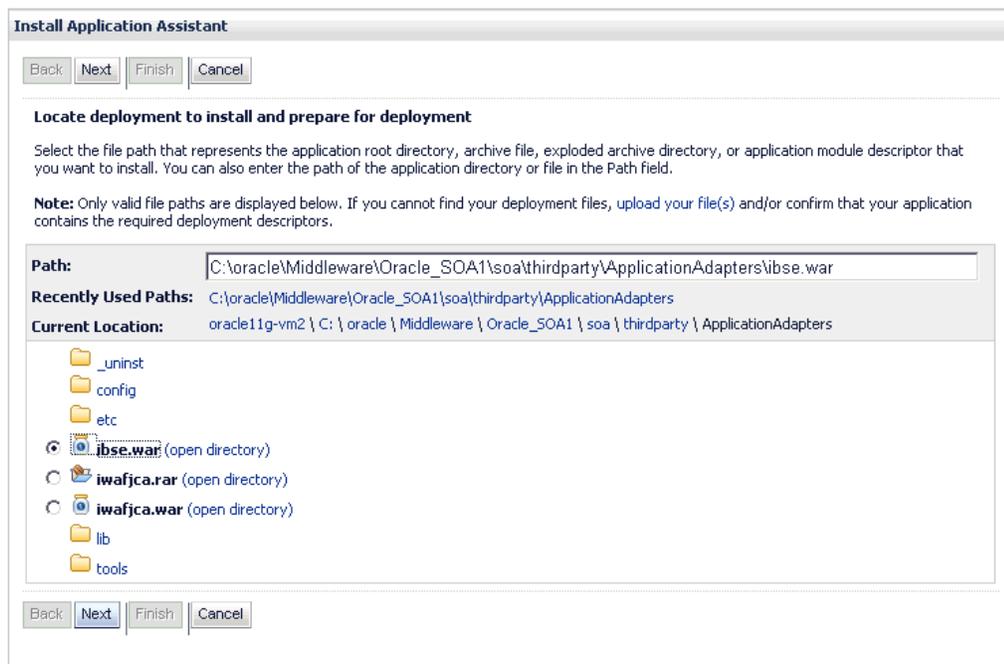
4. 左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「ロックして編集」をクリックし、「ドメイン構造」セクションで「デプロイメント」をクリックします。

「デプロイメント」ページが表示されます。

5. 「インストール」をクリックします。

図 2-33 に示すように、「アプリケーション・インストール・アシスタント」ページが表示されます。

図 2-33 アプリケーション・インストール・アシスタント



6. アダプタがインストールされている場所である `<ADAPTER_HOME>` を参照します。

- SOA の場合：

`<ORACLE_HOME>\soa\soa\thirdparty\ApplicationAdapters`

- OSB の場合：

`<ORACLE_HOME>\osb\3rdparty\ApplicationAdapters`

7. `ibse.war` オプションを選択し、「次」をクリックします。

「ターゲット指定スタイルの選択」ページが表示されます。

8. デフォルトの「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」を選択したままにして、「次」をクリックします。

図 2-34 に示すように、デプロイ・ターゲット・ページが表示されます。

図 2-34 デプロイ・ターゲット・ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Select deployment targets

Select the servers and/or clusters to which you want to deploy this application. (You can reconfigure deployment targets later).

Available targets for iwafjca :

Servers	
<input type="checkbox"/>	AdminServer
<input checked="" type="checkbox"/>	soa_server1

Back Next Finish Cancel

9. soa_server1 を選択し、「次」をクリックします。

図 2-35 に示すように、「オプション設定」ページが表示されます。

図 2-35 「オプション設定」ページ

Install Application Assistant

Back Next Finish Cancel

Optional Settings

You can modify these settings or accept the defaults

General

What do you want to name this deployment?

Name:

Security

What security model do you want to use with this application?

DD Only: Use only roles and policies that are defined in the deployment descriptors.

Custom Roles: Use roles that are defined in the Administration Console; use policies that are defined in the deployment descriptor.

Custom Roles and Policies: Use only roles and policies that are defined in the Administration Console.

Advanced: Use a custom model that you have configured on the realm's configuration page.

Source accessibility

10. 「次」をクリックし、その他はデフォルト値のままにします。

「サマリー」ページが表示されます。

11. 「終了」をクリックします。

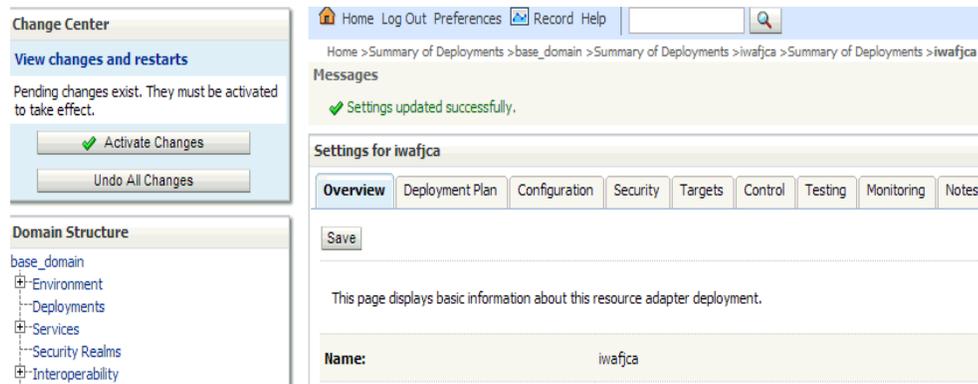
BSE (ibse) アプリケーションの「設定」ページが表示されます。

12. 「保存」をクリックします。

デプロイメントが成功したことを示す「設定が正常に更新されました。」というメッセージが表示されます。

13. 図 2-36 に示すように、左ペインの「チェンジ・センター」の下にある「変更のアクティブ化」をクリックします。

図 2-36 「変更のアクティブ化」ボタン



14. 左ペインの「ドメイン構造」セクションにある「デプロイメント」をクリックします。
15. 図 2-37 に示すように、デプロイ済の全アプリケーションがリストされている表をナビゲートして BSE (ibse) アプリケーションを探します。

図 2-37 「デプロイメント」ページ

Deployments

Install Update Delete Start Stop Showing 1 to 27 of 27 Previous Next

<input type="checkbox"/>	Name	State	Health	Type	Deployment Order
<input type="checkbox"/>	AqAdapter	New		Resource Adapter	324
<input type="checkbox"/>	b2bui	New		Enterprise Application	313
<input type="checkbox"/>	composer	New		Enterprise Application	315
<input type="checkbox"/>	DbAdapter	New		Resource Adapter	322
<input type="checkbox"/>	DefaultToDoTaskFlow	New		Enterprise Application	314
<input type="checkbox"/>	DMS Application (11.1.1.1.0)	Active	OK	Web Application	5
<input type="checkbox"/>	em	Active	OK	Enterprise Application	400
<input type="checkbox"/>	FileAdapter	New		Resource Adapter	321
<input type="checkbox"/>	FMW Welcome Page Application (11.1.0.0.0)	Active	OK	Enterprise Application	5
<input checked="" type="checkbox"/>	ibse	New		Web Application	100
<input type="checkbox"/>	iwafjca	New		Resource Adapter	100
<input type="checkbox"/>	iwafjcatst	New		Web Application	100

16. **ibse** オプションを選択します。
17. 「起動」サブメニュー(下向き矢印)をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択します。
「アプリケーション起動アシスタント」ページが表示されます。
18. 「はい」をクリックして、選択したデプロイメントを起動します。
これで、BSE (ibse) アプリケーションは正常に Oracle WebLogic Server にデプロイされました。

2.6.3 アプリケーション・エクスプローラを使用した BSE 構成への接続

新規 BSE 構成に接続するには、次の手順を実行します。

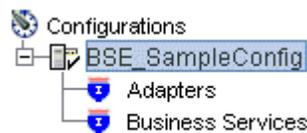
1. 接続先の構成を右クリックします (例: `BSE_SampleConfig`)。
2. 「接続」を選択します。

「アダプタ」および「ビジネス・サービス」(Web サービスとも呼ばれる)の各ノードが表示されます。「ビジネス・サービス」ノードは、BSE 構成でのみ使用可能です。

BSE 構成を使用している場合、イベントは適用されません。イベントは、J2CA 構成を使用する場合のみ構成できます。

図 2-38 に示すように、`BSE_SampleConfig` という名前の BSE 構成の例が表示されます。

図 2-38 サンプル BSE 構成ノード



- 「アダプタ」ノードを使用して、アダプタとのインバウンド相互作用を作成します。
- 「ビジネス・サービス」ノード (BSE 構成でのみ使用可能) を使用して、Web サービスをテストします。「ビジネス・サービス」ノードのセキュリティ機能を使用して、Web サービスのセキュリティ設定を制御することもできます。

インストール後のタスクを完了したら、Oracle Fusion Middleware Application Adapters の新しいターゲットを定義できます。ターゲットの構成に関する詳細は、対応するアダプタのユーザー・ガイドを参照してください。

2.7 ユーティリティ・スクリプトを使用したアダプタのデプロイ、アンデプロイおよび更新

この項では、利用可能なユーティリティ・スクリプトを使用した Oracle Fusion Middleware Application Adapters のデプロイの方法を説明します。次のトピックについて説明します。

- [2.7.1 項「デプロイメント・スクリプトへのアクセス」](#)
- [2.7.2 項「デプロイメント・スクリプトの使用」](#)

注意: この項で説明するユーティリティ・スクリプトは、次の環境では機能しません。

- SOA または OSB のクラスタ環境
 - PS6 から 12c 環境にアップグレードされたアダプタ
-

続行する前に、次の条件が満たされていることを確認します。

- Oracle WebLogic Server が起動している必要があります。
- `ra.xml` および `web.xml` の手動構成がすべて完了していることを確認します。

- スクリプトの実行中に、次の情報の入力を要求されます。続行する前に、該当する情報が手元にあることを確認します。
 - 管理サーバーのリスニング・ポート:管理サーバーが実行されリスニングしているポート。
 - デプロイ、アンデプロイ、または更新するアダプタ (iBSE と JCA のいずれか、または両方)。
 - アダプタをデプロイ、アンデプロイ、更新する名前 (デフォルト値は、*ibse*、*iwafjca* および *iwafjcaivp*)。
 - スクリプトを実行する対象の Oracle スイート (SOA または OSB)。
 - 選択した Oracle スイートのドメイン・モード (統合サーバーまたは管理対象モード)。
 - ドメインの作成中に指定されたサーバー名。
 - Oracle ホーム: Oracle WebLogic Server と、SOA または OSB のスイートがインストールされているホームの場所。
 - ドメインの作成中に指定されたドメイン・ユーザー名とパスワード。

注意: デプロイ、アンデプロイ、更新のスクリプトでは、(Windows および Windows 以外のプラットフォームで) 同じパラメータ値が要求されます。この項の残りのトピックでは、説明のため、(Windows プラットフォーム用) デプロイ・スクリプトを例として使用します。

注意: アンデプロイおよび更新のスクリプトを使用するときは、Oracle WebLogic Server でアダプタ (*ibse.war*、*iwafjca.rar*、*iwafjca.war*) がデプロイされている名前を把握しておく必要があります。

2.7.1 デプロイメント・スクリプトへのアクセス

この項では、Windows および Windows 以外のプラットフォームでデプロイメント・スクリプトにアクセスする方法について説明します。

2.7.1.1 Windows プラットフォーム

オプション 1:

次に示す、デプロイメント・スクリプトを使用できるディレクトリに移動します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\util\AdapterDeployment
```

Deployment_Windows.bat をダブルクリックして、デプロイを開始します。

オプション 2:

コマンド・プロンプトで、次に示す、デプロイメント・スクリプトを使用できるディレクトリに移動します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\util\AdapterDeployment
```

Deployment_Windows.bat ファイルを実行します。

2.7.1.2 Windows 以外のプラットフォーム

コマンド・プロンプトで、次に示す、デプロイメント・スクリプトを使用できるディレクトリに移動します。

```
<ADAPTER_HOME>/etc/util/AdapterDeployment
```

プラットフォームに応じて、`Deployment_Linux.sh` ファイルまたは `Deployment_Solaris_HP_AIX.sh` ファイルを実行します。

注意： アダプタのアンデプロイメントに使用できるスクリプトは次のとおりです。

- Windows: UnDeployment_Windows.bat
- Linux: UnDeployment_Linux.sh
- Solaris_AIX_HP: UnDeployment_Solaris_HP_AIX.sh

アダプタの更新に使用できるスクリプトは次のとおりです。

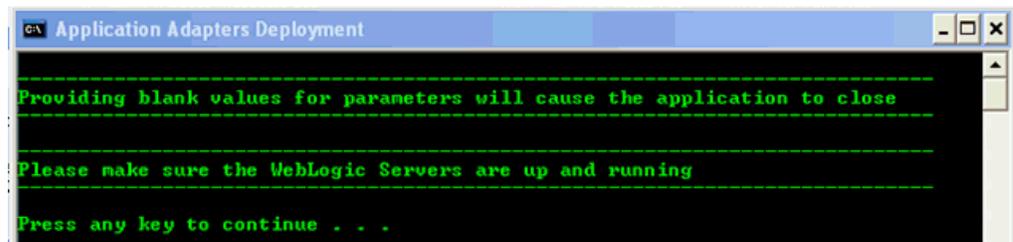
- Windows: Update_Deployment_Windows.bat
- Linux: Update_Deployment_Linux.sh
- Solaris_AIX_HP: Update_Deployment_Solaris_HP_AIX.sh

2.7.2 デプロイメント・スクリプトの使用

デプロイメント・スクリプトを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters をデプロイするには、次の手順を実行します。

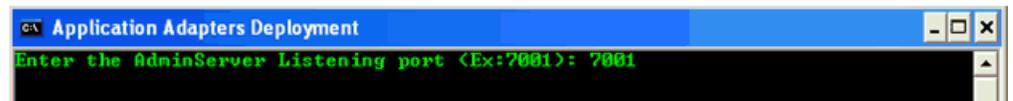
1. デプロイメント・スクリプトを実行したら、[図 2-39](#) に示すような、表示される警告メッセージを確認します。

図 2-39 デプロイメント・スクリプトの警告メッセージ



2. 任意のキーを押して続行します。
[図 2-40](#) に示すように、管理サーバーのリスニング・ポートの入力を要求されます。

図 2-40 管理サーバーのリスニング・ポート



3. リスニング・ポートの値を入力し、**[Enter]** を押して続行します。
[図 2-41](#) に示すように、iBSE、JCA、またはその両方をデプロイするかどうかを選択するよう要求されます。

図2-41 アダプタのデプロイメント・オプション

```

C:\> Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3

```

この例では、iBSE と JCA を一緒にデプロイするオプションを使用します。この選択に基づいて、iBSE と JCA を Oracle WebLogic Server にデプロイする名前の入力を要求されます。

4. 3 と入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-42 に示すように、*ibse.war* ファイルを Oracle WebLogic Server にデプロイする名前の入力を要求されます。

図2-42 iBSE のデプロイメント名の指定

```

C:\> Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse

```

5. 適切な名前を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-43 に示すように、*iwafjca.rar* ファイルを Oracle WebLogic Server にデプロイする名前の入力を要求されます。

図2-43 JCA (iwafjca.rar) のデプロイメント名の指定

```

1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca

```

6. 適切な名前を入力し、**[Enter]** を押して続行します。

図 2-44 に示すように、*iwafjca.war* ファイルを Oracle WebLogic Server にデプロイする名前の入力を要求されます。

図 2-44 JCA (iwafjca.war) のデプロイメント名の指定

```

Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp

```

7. 適切な名前を入力し、[Enter] を押して続行します。

図 2-45 に示すように、スクリプトを実行する対象のスイートの入力を要求されます。これは、SOA または OSB のいずれかです。

図 2-45 SOA または OSB スイートを入力するプロンプト

```

3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1

```

8. 適切なオプションを指定し、[Enter] を押して続行します。

選択した Oracle スイート (例: SOA) のドメイン・モードの入力を要求されます。

9. 適切なオプション (例: 管理対象モード) を指定し、[Enter] を押して続行します。

図 2-46 に示すように、SOA 管理対象サーバーの名前の入力を要求されます。

図 2-46 SOA 管理対象サーバー名を入力するプロンプト

```

Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy iBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both iBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the iwafjca.rar has to be deployed <Ex: iwafjca>:iwafjca
Please enter the name under which the iwafjca.war has to be deployed <Ex: iwafjcaivp>:iwafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1

```

10. 適切な値を指定し、[Enter] を押して続行します。

注意: 前のステップで統合サーバー・モードを選択した場合、統合サーバー名の入力が要求されたはずですが、この動作は SOA と OSB が同一です。

図 2-47 に示すように、Oracle ホーム・ディレクトリの入力を要求されます。

図 2-47 Oracle のホームの場所を入力するプロンプト

```

ex Application Adapters Deployment
Enter the AdminServer Listening port <Ex:7001>: 7001
Adapter Deployment Options:
1 - To deploy IBSE
2 - To deploy JCA
3 - To deploy both IBSE and JCA
Please enter your selection:3
Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the ivafjca.rar has to be deployed <Ex: ivafjca>:ivafjca
Please enter the name under which the ivafjca.war has to be deployed <Ex: ivafjcaivp>:ivafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PS5

```

これは、Oracle 12c がある場所です。

11. 適切な値を指定し、[Enter] を押して続行します。

図 2-48 に示すように、ドメイン・ユーザー名とパスワードの入力を要求されます。

図 2-48 ドメイン・ユーザー名とパスワードを入力するプロンプト

```

Please enter the name under which the ibse.war has to be deployed <Ex: ibse>:ibse
Please enter the name under which the ivafjca.rar has to be deployed <Ex: ivafjca>:ivafjca
Please enter the name under which the ivafjca.war has to be deployed <Ex: ivafjcaivp>:ivafjca_ivp
Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PS5
Enter the SOA Domain Username: weblogic
Enter the SOA Domain Password: welcome1

```

これは、ドメインの作成中に指定したユーザー名とパスワードです。

12. 適切な値を指定し、[Enter] を押して続行します。

図 2-49 に示すように、入力した詳細情報のサマリーが表示されます。

図 2-49 デプロイメントの詳細のサマリー

```

Enter the option for which the adapters to be deployed SOA - 1 , OSB - 2: 1
Enter the SOA Domain Mode <Admin Mode - 1 , Managed Mode - 2>:2
Enter the SOA ManagedServer name <Ex: soa_server1>:soa_server1
Enter the Oracle Home Location <Ex C:\Middleware>: C:\oracle\PS5
Enter the SOA Domain Username: weblogic
Enter the SOA Domain Password: welcome1
Please make sure if the deployment details are correct. Press "y" to continue with the Deployment of
-----
Admin Server Listen Port - 7001
Oracle Suite - SOA
Domain Mode - Managed Mode
Adapter Deployment - IBSE and JCA
Server Name - soa_server1
Oracle Home Location - C:\oracle\PS5
Username - weblogic
Password - welcome1
-----
Enter y/n:

```

13. 情報が正しければ、**y** または **Y** と入力し、アダプタのデプロイメントを続行します。情報が正しくない場合は、**n** または **N** と入力して戻り、適切な値を入力しなおします。**E** または **e** と入力してプログラムを終了することもできます。

注意：

- サマリーにリストされた情報を変更する必要がある場合は、**n** または **N** と入力すると、値の再入力が必要です。
 - **y** または **Y** と入力して続行すると、使用しているスクリプトに従い、スクリプトによるデプロイ (この例の場合)、アンデプロイ、または更新が続行されます。これ以降、ユーザーによる入力または手動操作は不要です。
 - スクリプトの実行を停止する場合は、**E** または **e** と入力してプログラムを終了します。
-

これ以降の画像は、デプロイ、アンデプロイ、更新のスクリプトの動作の例を示しています。

- [図 2-50 「デプロイ・スクリプトの例」](#)
- [図 2-51 「アンデプロイ・スクリプトの例」](#)
- [図 2-52 「更新スクリプトの例」](#)

図 2-50 デプロイ・スクリプトの例

```
c:\Application Adapters Deployment
Username - weblogic
Password - welcone1
-----
Enter y/n:y
CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\w
eblogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_class
path\weblogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI\1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\W
LSEURU\1.3\server\lib\weblogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\WLSEURU\1.3\server\lib\weblogi
c.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\weblogic.server.modules_10.3.6.0.jar;C:\ora
cle\PS5\WLSEURU\1.3\server\lib\webservice.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPPA\1.1\l
ib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSFA\1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\
PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"

PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_oc
p371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\WLSEURU\1.3\server\native\win\32;C:\or
acle\PS5\WLSEURU\1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPPA\1.1\bin;C:\oracle\PS
5\JROCKI\1.0-1\jre\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI\1.0-1\bin;C:\oracle\product\11.1.0\nd
b_1\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\nsr\bin;C:\WI
NDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM\1\Graphics\bin;C:\P
rogram Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\WLSEURU\1.3\s
erver\native\win\32\oc1920_8"

Your environment has been set.
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjca -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Applica
tionAdapters\iwafjca.rar -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:42:45 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng deploy operation for application, iwafjca [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1
\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\iwafjca.rar], to soa_server1 .>
Task 9 initiated: [Deployer:149026]deploy application iwafjca on soa_server1.
Task 9 completed: [Deployer:149026]deploy application iwafjca on soa_server1.
Target state: deploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjcaivp -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Appl
icationAdapters\iwafjcaivp.war -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:43:10 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng deploy operation for application, iwafjcaivp [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_S
OA1\soa\thirdparty\ApplicationAdapters\iwafjcaivp.war], to soa_server1 .>
Task 10 initiated: [Deployer:149026]deploy application iwafjcaivp on soa_server1
.
Task 10 completed: [Deployer:149026]deploy application iwafjcaivp on soa_server1
.
Target state: deploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name ibse -source C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\soa\thirdparty\Applica
tionAdapters\ibse.war -targets soa_server1 -deploy
<Aug 9, 2013 8:43:28 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng deploy operation for application, ibse [archive: C:\oracle\PS5\Oracle_SOA1\so
a\thirdparty\ApplicationAdapters\ibse.war], to soa_server1 .>
Task 11 initiated: [Deployer:149026]deploy application ibse on soa_server1.
Task 11 completed: [Deployer:149026]deploy application ibse on soa_server1.
Target state: deploy completed on Server soa_server1

Press any key to continue . . .
```

デプロイされたアダプタのアクティブ化も行われます。

図2-51 アンデプロイ・スクリプトの例

```
Application Adapters Undeployment
Server Name - soa_server1
Oracle Home Location - C:\oracle\PS5
Username - weblogic
Password - welcome1

Enter y/n:y
"Undeployment of adapters for SOA Managed Mode begins"

CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\w
eblogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_class
path\weblogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\W
LSERU~1.3\server\lib\weblogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\server\lib\weblogi
c.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\weblogic.server.modules_10.3.6.0.jar;C:\ora
cle\PS5\WLSERU~1.3\server\lib\webservices.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\l
ib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSFA~1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\
PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"

PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_oc
p371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\server\native\win32;C:\or
acle\PS5\WLSERU~1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPA~1.1\bin;C:\oracle\PS
5\JROCKI~1.0-1\jre\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\bin;C:\oracle\product\11.1.0\d
b_1\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\nsr\bin;C:\WI
NDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM~1\Graphviz\bin;C:\P
rogram Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\WLSERU~1.3\s
erver\native\win32\oci920_8"

Your environment has been set.
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjca -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:15 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, iwafjca [archive: null], to soa_server1 .
>
Task 0 initiated: [Deployer:149026]remove application iwafjca on soa_server1.
Task 0 completed: [Deployer:149026]remove application iwafjca on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name iwafjcaivp -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:35 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, iwafjcaivp [archive: null], to soa_server
1 .>
Task 1 initiated: [Deployer:149026]remove application iwafjcaivp on soa_server1.
Task 1 completed: [Deployer:149026]remove application iwafjcaivp on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username
weblogic -name ibse -targets soa_server1 -undeploy
<Aug 9, 2013 7:35:41 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiati
ng undeploy operation for application, ibse [archive: null], to soa_server1 .>
Task 2 initiated: [Deployer:149026]remove application ibse on soa_server1.
Task 2 completed: [Deployer:149026]remove application ibse on soa_server1.
Target state: undeploy completed on Server soa_server1

Press any key to continue . . .
```

図 2-52 更新スクリプトの例

```

Application Adapters Update
Enter y/n:y
CLASSPATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\sys_manifest_classpath\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\sys_manifest_classpath\webllogic_patch.jar;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\lib\tools.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webllogic_sp.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webllogic.jar;C:\oracle\PS5\modules\features\weblogic.server.modules_10.3.6.0.jar;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\lib\webservices.jar;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPAT~1.1\lib\ant-all.jar;C:\oracle\PS5\modules\NETSFA~1.0_1\lib\ant-contrib.jar;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\PsTools"
PATH="C:\oracle\PS5\patch_wls1036\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\patch_ocp371\profiles\default\native;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\native\win32;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\bin;C:\oracle\PS5\modules\ORGAPAT~1.1\bin;C:\oracle\PS5\JROCKI~1.0-1\bin;C:\oracle\PS5\product\11.1.0\bin;C:\Java\jdk1.6.0_29\jre;C:\PsTools;C:\Program Files\Legato\nsr\bin;C:\WINDOWS\system32;C:\WINDOWS;C:\WINDOWS\System32\Wbem;C:\PROGRAM~1\Graphviz\bin;C:\Program Files\GnuWin32\bin;C:\oracle\PS5\jdk160_29\bin;C:\oracle\PS5\MLSERU~1.3\server\native\win32\oci920_8"
Your environment has been set.
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username weblogic -name iwafjca -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:34 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, iwafjca [archive: null], to soa_server1.>
Task 12 initiated: [Deployer:149026]redploy application iwafjca on soa_server1.
Task 12 completed: [Deployer:149026]redploy application iwafjca on soa_server1.
Target state: redeploy completed on Server soa_server1
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username weblogic -name iwafjcaivp -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:44 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, iwafjcaivp [archive: null], to soa_server1.>
Task 13 initiated: [Deployer:149026]redploy application iwafjcaivp on soa_server1.
Task 13 completed: [Deployer:149026]redploy application iwafjcaivp on soa_server1.
Target state: redeploy completed on Server soa_server1
weblogic.Deployer invoked with options: -adminurl t3://localhost:7001 -username weblogic -name ibse -targets soa_server1 -redploy
<Aug 9, 2013 9:02:51 AM EDT> <Info> <J2EE Deployment SPI> <BEA-260121> <Initiating redeploy operation for application, ibse [archive: null], to soa_server1.>
Task 14 initiated: [Deployer:149026]redploy application ibse on soa_server1.
Task 14 failed: [Deployer:149026]redploy application ibse on soa_server1.
Target state: redeploy failed on Server soa_server1
weblogic.management.DeploymentException: [Deployer:149258]Server failed to remove the staged files 'C:\oracle\PS5\user_projects\domains\base_domain\servers\soa_server1\stage\ibse\ibse.war' for application 'ibse' completely. Check the directory and make sure no other application using this directory. This will result in inappropriate results when this server gets partitioned and trying to deploy this application.
Press any key to continue . . .

```

デプロイされたアダプタのアクティブ化も行われます。

2.8 インストール後のタスク

パッケージ化されたアプリケーション・アダプタに応じて、次に示すインストール後の構成タスクを実行します。

- 2.8.1 項「エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト」
- 2.8.2 項「エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー」
- 2.8.3 項「ディレクトリ構造」
- 2.8.4 項「Oracle データベース・リポジトリの構成」
- 2.8.5 項「DB2 データベース・リポジトリの構成」
- 2.8.6 項「Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成」

Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft をインストールした場合は、付録 A「Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成」を参照してください。Oracle WebLogic Server Application Adapter for J.D. Edwards

OneWorld をインストールした場合は、付録 B 「Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成」を参照してください。

注意： このガイドに記載されているディレクトリ・パスは、Windows の表記規則に従っています。たとえば、バックスラッシュ (\) が使用されています。

UNIX で Oracle WebLogic Server Application Adapter を使用する場合は、必要に応じてディレクトリ・パスを変更してください。

2.8.1 エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのリスト

次の項では、次のアダプタに必要なエンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルのリストを提供します。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld に必要なライブラリ・ファイルのリストを提供します。

J.D. Edwards OneWorld Java-based ThinNet API

この API は、J.D. Edwards OneWorld のインストール・メディアで .jar ファイルとして配布されています。これらのライブラリは、J.D. Edwards OneWorld のリリースによって異なる場合があります。

J.D. Edwards OneWorld システムでは、これらのファイルは次のフォルダにあります。

\\system\classes

XE (B7333) の場合：

- Connector.jar
- Kernel.jar

ERP 8.0(B7334) の場合：

- Connector.jar
- Kernel.jar

EnterpriseOne 8.9(B9) の場合：

- Connector.jar
- Kernel.jar
- jdeutil.jar
- log4j.jar

EnterpriseOne 8.10 の場合：

- Connector.jar
- Kernel.jar

- jdeutil.jar
- log4j.jar

EnterpriseOne 8.11(SP1 および Tools リリース 8.95) の場合 :

- Base_JAR.jar
- Connector.jar
- JdeNet_JAR.jar
- log4j.jar
- System_JAR.jar

EnterpriseOne 8.12(Tools リリース 8.96.2.0) の場合 :

- Connector.jar
- log4j.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcesser_EJB.jar
- EventProcesser_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar

EnterpriseOne 9.0(Tools リリース 8.98.1.3) の場合 :

- Connector.jar
- log4j.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcesser_EJB.jar
- EventProcesser_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar
- commons-httpclient-3.0.jar
- jmxri.jar
- ManagementAgent_JAR.jar

EnterpriseOne 9.1(Tools リリース 9.1.02) の場合 :

- Connector.jar
- Base_JAR.jar
- EventProcesser_EJB.jar
- EventProcesser_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- System_JAR.jar
- commons-httpclient-3.0.jar
- jmxri.jar
- ManagementAgent_JAR.jar

- jmxremote.jar
- jmxremote_optional.jar
- commons-logging.jar
- ApplicationAPIs_JAR.jar

対応する J.D. Edwards OneWorld のライブラリ・ファイルを、SOA 環境または OSB 環境のアプリケーション・アダプタおよびドメインの lib ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-49 ページ「[エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー](#)」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に必要なライブラリ・ファイルのリストを提供します。

- PeopleSoft Java Object Adapter ファイル (psjoa.jar)

このファイルは、クライアント・アプリケーションと PeopleSoft の間の低レベル・インタフェースを提供します。このファイルは PeopleSoft によって提供され、*PeopleSoft_home_directory/web/PSJOA* ディレクトリに含まれています。

psjoa.jar ファイルは PeopleSoft のバージョンごとに異なります。PeopleTools のリリースをアップグレードする場合は、新しいリリースの psjoa.jar ファイルを lib ディレクトリにコピーし、すべてのコンポーネントを再起動します。
- pstools.properties

PeopleTools 8.1x に必要なファイルです。このファイルは *PeopleSoft_home_directory/web/jmac* ディレクトリに含まれています。
- PeopleSoft で生成された Java API

Component Interface Java API の生成に関する詳細は、*Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft User's Guide for Oracle WebLogic Server* を参照してください。

PeopleSoft アダプタのライブラリ・ファイルを、SOA 環境または OSB 環境のアプリケーション・アダプタおよびドメインの lib ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-49 ページ「[エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー](#)」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel に必要なライブラリ・ファイルのリストを提供します。

Siebel Java データ Bean API (Siebel 6.3.x 以降)。Siebel Thin Client とともに .jar ファイルとして配布されます。

これらのライブラリは、Siebel のリリースによって内容と名前の両方が異なります。そのため、必ずターゲット Siebel システムに同梱されている Siebel Thin Client をアダプタで使用する必要があります。次に例を示します。

Siebel システムでは、これらのライブラリ・ファイルは次のフォルダにあります。

```
<siebel home>\siebsrvr\CLASSES
```

Siebel 6.3.x の場合：

- SiebelTcOM.jar
- SiebelTcCommon.jar

- SiebelTC_enu.jar
- SiebelDataBean.jar

Siebel 7.0.3 の場合 :

- SiebelJI_Common.jar
- SiebelJI_enu.jar

Siebel 7.5.2 の場合 :

- SiebelJI_Common.jar
- SiebelJI_enu.jar
- SiebelJI.jar

Siebel 7.7 - 8.0、8.2 の場合 :

- SiebelJI_enu.jar
- Siebel.jar

Siebel 8.1 の場合 :

- SiebelJI.jar
- Siebel.jar

Siebel 8.2 の場合 :

- SiebelJI.jar
- Siebel.jar

Siebel COM ベース API (Windows のみ) を使用するには、Siebel Thin Client がインストール済で Siebel アダプタにアクセス可能であることが必要です。

前出のリストに含まれる次のファイルは、英語のインストールで使用されるものです。

- SiebelTC_enu.jar
- SiebelJI_enu.jar

英語以外のインストールの場合は、最後の 3 文字 (_enu) が異なります。

トランスポートとして MQ Series を使用する場合は、`com.ibm.mq.jar` ファイルを使用する必要があります。

Siebel に関して必要な追加の手順は、*Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel User's Guide for Oracle WebLogic Server* を参照してください。

対応する Siebel のライブラリ・ファイルを、SOA 環境または OSB 環境のアプリケーション・アダプタおよびドメインの `lib` ディレクトリにコピーする必要があります。詳細は、2-49 ページ「[エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー](#)」を参照してください。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)に必要なライブラリ・ファイルのリストを提供します。

Windows:

- SAP Java Connector (SAP JCo) バージョン 3.0.11
 - `sapjco3.jar`

- sapjco3.dll

Linux/Solaris/OS400:

- sapjco3.jar
- libsapjco3.so

HP-UX:

- sapjco3.jar
- libsapjco3.sl

AIX:

- sapjco3.jar
- libsapjco3.so

2.8.2 エンタープライズ情報システム・ライブラリ・ファイルのコピー

この項では、次のアダプタに関して、エンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルをコピーする必要がある具体的なディレクトリを説明します。

- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft
- Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel

これらのアダプタの EIS ライブラリ・ファイルを、次に示す SOA または OSB のディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

以降の項では、EIS のバージョンによって異なる具体的な EIS ライブラリ・ファイルのリストを、EIS ごとに提供します。

注意： EIS は、常に 1 つのバージョンのみを使用する必要があります。2 つのバージョンの EIS ライブラリ・ファイルを同時に使用しないでください。Oracle Fusion Middleware Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft および Oracle Fusion Middleware Application Adapter for Siebel を使用して一度に接続できるのは、1 つのバージョンの EIS のみです。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用)

この項では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for SAP R/3(SAP JCo 3.x 使用) に対して、エンタープライズ情報システム (EIS) ライブラリ・ファイルをコピーする必要がある具体的なディレクトリを説明します。

Windows:

sapjco3.jar ファイルと sapjco3.dll ファイルを、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

注意： Oracle WebLogic Server のクラスパスにも *sapjco3.jar* ファイルと *sapjco3.dll* ファイルを追加する必要があります。

Linux/Solaris/OS400:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjcorfc.so* ファイルを、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

HP-UX:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjco3.sl* ファイルを、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

AIX:

sapjco3.jar ファイルと *libsapjco3.so* ファイルを、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

- <ADAPTER_HOME>\lib
- <ORACLE_HOME>\user_projects\domains\base_domain\lib

Solaris:

SAP JCo ライブラリ・ファイルの指定方法として、次の 2 つがサポートされています。

- SAP JCo ファイル(*sapjco3.jar* と *libsapjco3.so*) を JDK フォルダにコピーします。例: *jdk/jre/lib/sparc/server*
または
- SAP JCo ファイルを次のディレクトリにコピーします。
/usr/j2sdkxxxxx/jre/lib/sparcv9/server
ここで、*xxxxx* は JDK バージョンを表します。

もしくは、Application Server Control コンソールを使用して、これらのファイルのパスを環境変数定義に追加します。Application Server 管理オプションの詳細は、Oracle WebLogic Server 管理者ガイドを参照してください。

2.8.3 ディレクトリ構造

パッケージ化されたアプリケーション・アダプタは、Oracle WebLogic Server ホーム・ディレクトリの *ApplicationAdapters* サブディレクトリにインストールされます。表 2-1 にディレクトリ構造を示します。

表 2-1 パッケージ化されたアプリケーション・アダプタのディレクトリ構造

サブディレクトリ	説明
<i>_uninst</i>	アンインストール・ファイルが含まれます。
<i>etc</i>	<i>application</i> 、 <i>doc</i> 、 <i>jde</i> 、 <i>licenses</i> 、 <i>peoplesoft</i> の各フォルダと、 <i>mysap30.jar</i> および <i>iwse.ora</i> ファイルが含まれます。
<i>ibse.war</i>	BSE アプリケーションおよびリポジトリ構成が含まれます。

表2-1 パッケージ化されたアプリケーション・アダプタのディレクトリ構造(続き)

サブディレクトリ	説明
iwafjca.rar	J2CA アプリケーションおよびリポジトリ構成が含まれます。
iwafjca.war	J2CA Installation Verification Program (IVP) が含まれます。
lib	ライブラリ・ファイルおよび iWay アダプタ・フレームワークのファイルが含まれます。
tools	アプリケーション・エクスプローラのグラフィカル・ユーザー・インタフェースが含まれます。

2.8.4 Oracle データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャンネルおよびその他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストまたは本番環境ではサポートされません。インストール後は、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、Oracle データベース・リポジトリを旧リリースから現行リリースに移行できます。詳細は、*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter アップグレード・ガイド*を参照してください。

次の操作を実行するときは、データベースに対して構成したのと同じユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

- `iwse.ora` SQL スクリプトの実行。
- `jcatransport.properties` ファイルの構成。
- `ra.xml` ファイルの構成。
- BSE 構成 Web ページを使用した BSE の構成。

この項では、Oracle データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。

注意： Oracle Application Adapters では、Oracle エンタープライズ・データベースがリポジトリとして動作保証されています。動作が保証されているバージョンは Oracle Database 12c Enterprise Edition (12.1.0.1.0) です。

Oracle エンタープライズ・データベースのその他のバージョンについても、Oracle SOA Suite でサポートされている限りサポートされません。Oracle Application Adapters は、Oracle エンタープライズ・データベース以外のデータベース (Oracle XE、Oracle Berkeley データベースなど) をサポートしていません。

1. データベースがインストールされているシステムで、`iwse.ora` SQL スクリプトを実行します。

注意： *iwse.ora* スクリプトを初めて使用するときに、BSE 構成および J2CA 構成用にデータベース・リポジトリが自動的に作成されます。そのため、それぞれの構成タイプに対して *iwse.ora* スクリプトを 2 回実行する必要はありません。このスクリプトを 2 回以上使用した場合、BSE リポジトリおよび J2CA リポジトリが再作成され、最初のデータベース・リポジトリに格納された値は削除されます。

iwse.ora SQL スクリプトは、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

このスクリプトによって、アダプタ構成情報をデータベースに格納するために必要な表が作成されます。これらの表は、アプリケーション・エクンプローラおよびアダプタによって、設計時および実行時に使用されます。データベース・リポジトリの作成と、*ra.xml* ファイル (J2CA 構成) でのデータベースのユーザー資格証明には、同じ資格証明を使用することをお勧めします。

コマンド・プロンプトを開き、アダプタのインストールに基づいて次のディレクトリに移動して、*sqlplus* と入力します。

表の作成に使用するユーザーに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

次に示すように、*iwse.ora* スクリプトを実行します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc>sqlplus
```

```
SQL*Plus: Release 12.1.0.1.0 Production
Copyright (c) 1982, 2013, Oracle.All rights reserved.
```

```
Enter user-name: scott
Enter password:
```

```
Connected to:
Oracle Database 12c Enterprise Edition Release 12.1.0.1.0 - 64bit Production
With the Partitioning, OLAP, Advanced Analytics and Real Application Testing
options
```

```
SQL>@ iwse.ora
```

2. *ojdbc7.jar* ファイルを、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

ojdbc7.jar ファイルは次のディレクトリにあります。

```
<Oracle_dbhome_1>\jdbc\lib
```

3. *ojdbc7.jar* ファイルを認識させるために、Oracle WebLogic Server を再起動します。

J2CA リポジトリの構成

J2CA リポジトリを構成するには、次の追加の手順を実行する必要があります。

1. *jcatransport.properties* ファイルを作成し、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに保存します。

```
<ADAPTER_HOME>\config\J2CA_SampleConfig
```

注意: `jcatransport.properties` ファイルは、アプリケーション・エクスペローラで作成した J2CA 構成ごとに必要です。J2CA 構成フォルダ (例: `J2CA_SampleConfig`) には、アプリケーション・エクスペローラで指定した構成名に基づいて名前が付けられます。

2. 次の例に示すように、新しく作成した `jcatransport.properties` ファイルの `iwafjca.repo.driver`、`iwafjca.repo.url`、`iwafjca.repo.user`、`iwafjca.repo.password` の各フィールドに値を入力します。

```
iwafjca.repo.driver= oracle.jdbc.driver.OracleDriver
iwafjca.repo.url=jdbc:oracle:thin:@90.0.0.51:1521:orcl
iwafjca.repo.user=scott
iwafjca.repo.password=scott1
```

次の表に、`iwafjca` パラメータのリストおよび説明を示します。

パラメータ	説明
<code>iwafjca.repo.driver</code>	データベースへの接続を開くときに使用するドライバ・クラスを指定します。たとえば、Oracle に接続するときは次のリポジトリ・ドライバ書式を使用します。 oracle.jdbc.driver.OracleDriver
<code>iwafjca.repo.url</code>	データベースへの接続を開くときに使用する URL を入力します。たとえば、Oracle に接続するときは次のリポジトリ URL 書式を使用します。 jdbc:oracle:thin:@host name:port:SID
<code>iwafjca.repo.user</code>	データベース・リポジトリを構成するために <code>iwse.ora</code> SQL スクリプトを実行したときと同じユーザー ID を入力します。
<code>iwafjca.repo.password</code>	データベース・リポジトリを構成するために <code>iwse.ora</code> SQL スクリプトを実行したときと同じパスワードを入力します。

3. 次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに移動します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

4. `ra.xml` ファイルをテキスト・エディタで開きます。
5. ステップ 2 で `jcatransport.properties` に指定したのと同様に、`IWAYRepoDriver` プロパティにリポジトリ・ドライバの値を指定します。
6. ステップ 2 で `jcatransport.properties` に指定したのと同様に、`IWAYRepoURL` プロパティの値として JDBC 接続情報を指定します。
7. ステップ 2 で `jcatransport.properties` に指定したのと同様に、`IWAYRepoUser` プロパティに有効なユーザー名を指定します。
8. ステップ 2 で `jcatransport.properties` に指定したのと同様に、`IWAYRepoPassword` プロパティに有効なパスワードを指定します。

次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoDriver</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
```

```

<config-property-value>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>jdbc:oracle:thin:@192.168.128.167.1521:orcl</config-prop
erty-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>scott</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWAYRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>scott1</config-property-value>
</config-property>

```

9. 変更を *ra.xml* ファイルに保存します。
10. Oracle WebLogic Server を再起動し、*iwafjca.rar* および *iwafjca.war* ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の Oracle リポジトリのインストールと構成は完了です。

BSE リポジトリの構成

BSE リポジトリを構成するには、次の追加の手順を実行する必要があります。

1. Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

`http://host name:port/ibse/IBSEConfig`

ここで、*host name* は BSE がインストールされているシステムで、*port* は BSE がリスニングするポート番号です。

注意： BSE のデプロイ先サーバー稼働している必要があります。

図 2-53 に示すように、BSE 設定ペインが表示されます。

図 2-53 BSE 設定ペイン

Property Name	Property Value
System	
Language	English
Adapter Lib Directory	../base_domain/lib
Encoding	UTF-8
Debug Level	DEBUG
Number of Async. Processors	0

2. システム設定を構成します。

次の表に、「システム」のパラメータのリストおよび説明を示します。

パラメータ	説明
言語	必要な言語を指定します。
アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ	アダプタの jar ファイルがあるディレクトリのフルパスを入力します。
エンコーディング	UTF-8 のみがサポートされています。
デバッグ・レベル	次のオプションからデバッグ・レベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ なし ■ 致命的 ■ エラー ■ 警告 ■ 情報 ■ デバッグ
非同期プロセッサの数	非同期プロセッサの数を選択します。

3. [図 2-54](#) に示すように、リポジトリ設定を構成します。

図 2-54 「リポジトリ」設定ペイン

Repository

Repository Type:

Repository Url:

Repository Driver:

Repository User:

Repository Password:

Repository Pooling:

Save

4. リポジトリ設定を構成します。

BSE では、Web サービスの配信に必要なトランザクションおよびメタデータをリポジトリに格納する必要があります。

「リポジトリ」のパラメータのリストおよび説明を次の表に示します。

パラメータ	説明
リポジトリ・タイプ	次のリポジトリ・リストから Oracle を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ■ DB2 ■ ファイル・システム (本番環境で BSE に使用しないでください。) ■ SQL Server
リポジトリ URL	データベースへの接続を開くときに使用する URL を入力します。たとえば、Oracle に接続するときは次のリポジトリ URL 書式を使用します。 jdbc:oracle:thin:@host name:port:SID
リポジトリ・ドライバ	データベースへの接続を開くときに使用するドライバ・クラスを指定します (オプション)。たとえば、Oracle に接続するときは次のリポジトリ・ドライバ書式を使用します。 oracle.jdbc.driver.OracleDriver
リポジトリ・ユーザー	データベース・リポジトリを構成するために <i>iwse.ora</i> SQL スクリプトを実行したときと同じユーザー ID を入力します。
リポジトリ・パスワード	データベース・リポジトリを構成するために <i>iwse.ora</i> SQL スクリプトを実行したときと同じパスワードを入力します。
リポジトリ・プーリング	選択するとリポジトリ・プーリングが使用されます。このオプションはデフォルトでは無効です。

5. 「保存」をクリックします。
6. Oracle WebLogic Server を再起動します。

これ以降の Oracle Fusion Middleware Application Adapters での作業に関する詳細は、対応するアダプタのユーザー・ガイドを参照してください。

2.8.5 DB2 データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャネルおよびその他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストまたは本番環境ではサポートされません。インストール後は、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

注意： Oracle 12c (12.1.3.0.0) では、DB2 データベース・リポジトリを旧リリースから現行リリースに移行できます。詳細は、*Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter アップグレード・ガイド*を参照してください。

この項では、DB2 データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- [2.8.5.1 項「サポートされる DB2 バージョン」](#)
- [2.8.5.2 項「使用に関する考慮事項」](#)
- [2.8.5.3 項「前提条件」](#)
- [2.8.5.4 項「DB2 データベース・リポジトリの作成」](#)
- [2.8.5.5 項「J2CA リポジトリの構成」](#)

- 2.8.5.6 項「BSE リポジトリの構成」

2.8.5.1 サポートされる DB2 バージョン

IBM AIX プラットフォームでは、DB2 Enterprise Server Edition バージョン 9.7 および 10.1 のみがサポートされます。それ以外のバージョンの DB2 およびオペレーティング・システム (IBM AIX 以外) はサポートされません。

2.8.5.2 使用に関する考慮事項

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリの使用に関する考慮事項について説明します。

1. 以前にファイル・リポジトリまたは Oracle データベース・リポジトリを使用しており、DB2 または SQL Server のリポジトリをインストールして構成した場合は、パラメータを Oracle データベース・リポジトリ用に構成しなおすことで、以前に構成したリポジトリにアクセスできます (データベースに変更が加えられていない場合)。そうでない場合は、次のコマンドを使用して移行ユーティリティでデータベース・リポジトリのコピーを作成し、必要な場合にはそれをデータベースにロードすることができます。

```
jcaupd copy jca_sample -jdbc oracle.jdbc.driver.OracleDriver
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl scott Scott123 -file jca_repository.xml
```

それがファイル・リポジトリである場合は、再使用できるように repository.xml のバックアップを作成します。

2. ra.xml および jcatransport.properties ファイルのデフォルトのパラメータ値は使用しないでください。ご使用の環境に応じてこれらのパラメータ値を変更する必要があります。

2.8.5.3 前提条件

DB2 データベース・リポジトリを構成する前に、次の前提条件の手順が完了していることを確認します。

1. アプリケーション・エクスプローラを閉じます。
2. *ibse.war*、*iwafjca.rar*、*iwafjca.war* の各ファイルがすでにデプロイされている場合は、これらをアンデプロイします。
3. Oracle WebLogic Server をシャットダウンします。
4. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイルを入手します。

DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイルは、*db2jcc_license_cu.jar* および *db2jcc.jar* です。DB2 JDBC ドライバ・ファイルは通常、次のいずれかのディレクトリにあります (インストールによって異なります)。

```
$DB2_home/sql/lib/lib
```

```
$DB2_home/sql/lib/java
```

2.8.5.4 DB2 データベース・リポジトリの作成

この項では、DB2 データベース・リポジトリを作成する方法について説明します。

1. *iwse.db2* データベース・スクリプトが、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあることを確認します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

2. コマンド・プロンプトを開いて該当のディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを使用して、DB2 データベースに接続します。

```
db2 connect to DATABASE user USERNAME using PASSWORD
```

次に例を示します。

```
$ db2 connect to orcl user db2 using 11unix
```

注意： ユーザー ID とパスワードに、データベースに対する読み取り / 書き込み権限があることを確認します。J2CA および BSE のリポジトリ構成プロセスで必要になるため、このユーザー名とパスワードを書き留めておきます。

4. 次のコマンドを使用して、*iwse.db2* データベース・スクリプトを実行します。

```
db2 -vtf iwse.db2
```

注意： このスクリプトを初めて実行するときは、表がまだ使用可能ではないため、DROP TABLE 文からエラー・メッセージが返されます。これらのエラー・メッセージは無視できます。

次のサンプル構文に、コマンド・プロンプトで *iwse.db2* データベース・スクリプトがどのように実行されるのかを示します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc
```

```
$ db2 connect to orcl user db2 using 11unix
```

```
Database Connection Information
Database server          = DB2/AIX64 9.5.5
SQL authorization ID    = DB2
Local database alias    = ORCL
$db2 -vtf iwse.db2
```

```
-----
DROP TABLE IBS_OBJECT
DB21034E The command was processed as an SQL statement because it was not a
valid Command Line Processor command.During SQL processing it returned:
SQL0204N "DB2.IBS_OBJECT" is an undefined name.SQLSTATE=42704
```

注意： *iwse.db2* データベース・スクリプトは、多数の DROP コマンドと CREATE コマンドを順次実行します。コマンドが成功するたびに、SQL コマンドが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

5. すべてのコマンドが正常に実行されたことを確認します。

コマンドが正常に実行されたら、2-59 ページ [2.8.5.5 項「J2CA リポジトリの構成」](#) または 2-60 ページ [2.8.5.6 項「BSE リポジトリの構成」](#) に進みます。

注意： *iwse.db2* データベース・スクリプトを実行すると、J2CA 構成および BSE 構成用のリポジトリが作成されます。

2.8.5.5 J2CA リポジトリの構成

この項では、J2CA 用の DB2 データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。

1. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (*db2jcc_license_cu.jar* と *db2jcc.jar*) を、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar
```

2. J2CA 構成フォルダの下に、*jcatransport.properties* というファイルを作成します。

J2CA 構成フォルダは、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\config
```

J2CA 構成フォルダには、アプリケーション・エクスペローラを使用して新規 J2CA 構成を作成したときに指定した名前が使用されます。

たとえば、*jca_sample* という名前の J2CA 構成を作成した場合は、次のディレクトリに *jca_sample* フォルダが作成されます。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

該当する J2CA 構成フォルダに移動した後で、次の手順を実行します。

- a. *jcatransport.properties* という名前のテキスト・ファイルを作成します。
- b. 次のパラメータを入力し、それに対応する値を指定します。

iwafjca.repo.driver: DB2 データベース用の JDBC ドライバ・クラス。

iwafjca.repo.url: JDBC URL。

iwafjca.repo.user: DB2 データベースのユーザー名。

iwafjca.repo.password: DB2 データベースのユーザー・パスワード。

次に例を示します。

```
iwafjca.repo.driver=com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
iwafjca.repo.url=jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl
iwafjca.repo.user=db2
iwafjca.repo.password=11unix
```

注意： DB2 リポジトリの作成プロセスで *iwse.db2* スクリプトの実行時に指定したのと同じユーザー名とパスワードを使用する必要があります。*.zip* アーカイブ・ファイルにパッケージ化されている *jcatransport.properties* ファイルのサンプルを参照できます。

- c. `jcatransport.properties` ファイルを、J2CA 構成フォルダに保存します。次に例を示します。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成が別の名前である場合は、該当するフォルダにファイルを保存します。ファイル名は `jcatransport.properties` である必要があります。このファイルに別の名前を付けると、J2CA コネクタが不安定になります。

- d. 複数の J2CA 構成を使用している場合は、`jcatransport.properties` ファイルのインスタンスを個別に作成してそれぞれの J2CA 構成フォルダに保存する必要があります。
3. 次のディレクトリにある `ra.xml` ファイルを、適切なデータベース・リポジトリ・パラメータを指定して変更します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar/META-INF
```

- a. `ra.xml` ファイルをエディタで開きます。
- b. `IWayRepoURL`、`IWayRepoUser`、`IWayRepoPassword` の各要素の値を変更します。次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl@driverType=JCC
</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>db2</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>11unix</config-property-value>
</config-property>
```

注意： DB2 リポジトリの作成プロセスで `iwse.db2` スクリプトの実行時に指定したのと同じユーザー名とパスワードを使用する必要があります。`.zip` アーカイブ・ファイルにパッケージ化されている `ra.xml` ファイルのサンプルを参照できます。

- c. `ra.xml` ファイルを保存します。
- d. Oracle WebLogic Server を再起動し、`iwafjca.rar` および `iwafjca.war` ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の DB2 リポジトリのインストールと構成は完了です。

2.8.5.6 BSE リポジトリの構成

この項では、BSE 用の DB2 データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。

1. `ibse.war` ファイルがアンデプロイされており、Oracle WebLogic Server が停止していることを確認します。

- DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (`db2jcc_license_cu.jar` と `db2jcc.jar`) を、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\lib
```

- Oracle WebLogic Server を起動し、管理コンソールを使用して `ibse.war` ファイルをデプロイします。
- Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

```
http://host name:port/ibse/IBSEConfig
```

ここで、`host name` は BSE がインストールされているシステムで、`port` は BSE がリスニングするポート番号です。

注意： BSE のデプロイ先サーバーが稼働している必要があります。

- リポジトリ・タイプとして `db2` を選択し、それに従ってパラメータの値を入力します。

```
jdbc:db2://[host]:[port]/database
```

ここで、`host` はデータベースがインストールされているサーバー名を、`port` はデータベース・ポートを、`database` はデータベース名を表します。

- 次のパラメータを入力し、それに対応する値を指定します。

リポジトリ URL: リポジトリの JDBC URL。例:

```
jdbc:db2://172.30.163.197:60000/orcl.
```

リポジトリ・ドライバ: DB2 データベース用の JDBC ドライバ・クラス。

例: `com.ibm.db2.jcc.DB2Driver`。

リポジトリ・ユーザー: データベースのユーザー名。

リポジトリ・パスワード: このユーザーのパスワード。

注意： DB2 リポジトリの作成プロセスで `iwse.db2` スクリプトの実行時に指定したのと同じユーザー名とパスワードを使用する必要があります。

- 「保存」をクリックします。
- Oracle WebLogic Server を再起動します。

これで、BSE 構成用の DB2 リポジトリのインストールと構成は完了です。

2.8.6 Microsoft SQL (MS SQL) Server データベース・リポジトリの構成

リポジトリには、構成の詳細、アダプタ・ターゲット、チャネルおよびその他の構成情報が保持されます。これらの情報は、アダプタのインストール時に、ファイル・リポジトリとともにデフォルトでインストールされます。ファイル・リポジトリは、開発、テストまたは本番環境ではサポートされません。インストール後は、ただちにデータベース・リポジトリを構成することをお勧めします。

この項では、Microsoft SQL (MS SQL) データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 2.8.6.1 項「サポートされる MS SQL Server バージョン」

- 2.8.6.2 項「使用に関する考慮事項」
- 2.8.6.3 項「前提条件」
- 2.8.6.4 項「MS SQL Server データベース・リポジトリの作成」
- 2.8.6.5 項「J2CA リポジトリの構成」
- 2.8.6.6 項「BSE リポジトリの構成」

2.8.6.1 サポートされる MS SQL Server バージョン

Windows プラットフォームでは MS SQL Server Windows 2008 のみがサポートされます。それ以外のバージョンの MS SQL Server およびオペレーティング・システム (Windows 以外) はサポートされません。

2.8.6.2 使用に関する考慮事項

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリの使用に関する考慮事項について説明します。

1. 以前にファイル・リポジトリまたは Oracle データベース・リポジトリを使用しており、DB2 または SQL Server のリポジトリをインストールして構成する場合は、パラメータを Oracle データベース・リポジトリ用に構成しなおすことで、以前に構成したリポジトリにアクセスできます (データベースに変更が加えられていない場合)。そうでない場合は、次のコマンドを使用して移行ユーティリティでデータベース・リポジトリのコピーを作成し、必要な場合にはそれをデータベースにロードします。

```
jcaupd copy jca_sample -jdbc oracle.jdbc.driver.OracleDriver
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl scott Scott123 -file jca_repository.xml
```

それがファイル・リポジトリである場合は、再使用できるように repository.xml のバックアップを作成します。

2. ra.xml および jcatransport.properties ファイルのデフォルトのパラメータ値は使用しないでください。ご使用の環境に応じてこれらのパラメータ値を変更する必要があります。

2.8.6.3 前提条件

MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する前に、次の前提条件の手順が完了していることを確認します。

1. MS SQL Server データベースにすでにデータベースが作成されており、使用可能であることを確認します。
2. アプリケーション・エクスプローラを閉じます。
3. ibse.war、iwafjca.rar、iwafjca.war の各ファイルがすでにデプロイされている場合は、これらをアンデプロイします。
4. Oracle WebLogic Server をシャットダウンします。
5. MS SQL Server 2008 データベース用の JDBC ドライバである sqljdbc4.jar ファイルを入手します。MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・ファイルは通常、次のいずれかのディレクトリにあります (インストールによって異なります)。

```
c:\<MS-SQL_SERVER_home>/sqllib/lib
c:\<MS-SQL_SERVER_home>/sqllib/java
```

2.8.6.4 MS SQL Server データベース・リポジトリの作成

この項では、MS SQL Server データベース・リポジトリを作成する方法について説明します。

1. *iwse.sql* データベース・スクリプトが、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあることを確認します。
`<ADAPTER_HOME>\etc`
2. SQL Server Management Studio を開き、データベース・エンジンに接続します。
3. データベースを展開し、スクリプトを実行する対象のデータベースを選択します。
4. データベースを右クリックし、「新しいクエリ」を選択します。
5. 開いたウィンドウで、*iwse.sql* から完全なスクリプトをコピーして貼り付け、「実行」ボタンをクリックします。
6. 実行後に「コマンドが正常に実行されました」というメッセージが表示されます。

2.8.6.5 J2CA リポジトリの構成

この項では、J2CA 用の MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。

1. MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (*sqljdbc4.jar*) を、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar
```

2. J2CA 構成フォルダの下に、*jcatransport.properties* というファイルを作成します。

J2CA 構成フォルダは、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\config
```

J2CA 構成フォルダには、アプリケーション・エクスプローラを使用して新規 J2CA 構成を作成したときに指定した名前が使用されます。

たとえば、*jca_sample* という名前の J2CA 構成を作成した場合は、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに *jca_sample* フォルダが作成されます。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

該当する J2CA 構成フォルダに移動した後で、次の手順を実行します。

- a. *jcatransport.properties* ファイルを編集します。
- b. 次のパラメータを入力し、それに対応する値を指定します。

iwafjca.repo.driver: MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・クラス。

iwafjca.repo.url: JDBC URL。

iwafjca.repo.user: MS SQL Server データベースのユーザー名。

iwafjca.repo.password: MS SQL Server データベースのユーザー・パスワード。

次に例を示します。

```
iwafjca.repo.driver=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
iwafjca.repo.url=jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepository
iwafjca.repo.user=sa
iwafjca.repo.password=Welcome123
```

注意： MS SQL Server リポジトリの作成プロセスで *iwse.sql* スクリプトの実行時に指定したのと同じユーザー名とパスワードを使用する必要があります。

- c. *jcatransport.properties* ファイルを、J2CA 構成フォルダに保存します。次に例を示します。

```
<ADAPTER_HOME>\config\jca_sample
```

J2CA 構成が別の名前である場合は、該当するフォルダにファイルを保存します。ファイル名は *jcatransport.properties* である必要があります。このファイルに別の名前を付けると、J2CA コネクタが不安定になります。

- d. 複数の J2CA 構成を使用している場合は、*jcatransport.properties* ファイルのインスタンスを個別に作成してそれぞれの J2CA 構成フォルダに保存する必要があります。
3. 次のディレクトリにある *ra.xml* ファイルを、適切なデータベース・リポジトリ・パラメータを指定して変更します。

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar\META-INF
```

- a. *ra.xml* ファイルをエディタで開きます。
- b. *IWayRepoDriver*、*IWayRepoURL*、*IWayRepoUser*、*IWayRepoPassword* の各要素の値を変更します。次に例を示します。

```
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoDriver</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver</config-
property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoURL</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
<config-property-value>jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepo
sitory</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoUser</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>sa</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <config-property-name>IWayRepoPassword</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>Welcome123</config-property-value>
</config-property>
```

注意： MS SQL Server リポジトリの作成プロセスで *iwse.sql* スクリプトの実行時に指定したのと同じユーザー名とパスワードを使用する必要があります。

- c. *ra.xml* ファイルを保存します。
- d. Oracle WebLogic Server を再起動し、*iwafjca.rar* および *iwafjca.war* ファイルを再デプロイします。

これで、J2CA 構成用の MS SQL Server リポジトリのインストールと構成は完了です。

2.8.6.6 BSE リポジトリの構成

この項では、BSE 用の MS SQL Server データベース・リポジトリを構成する方法について説明します。

1. *ibse.war* ファイルがアンデプロイされており、Oracle WebLogic Server が停止していることを確認します。
2. DB2 データベース用の JDBC ドライバ・ファイル (*sqljdbc4.jar*) を、次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリにコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
<ADAPTER_HOME>\ibse.war\WEB-INF\lib
```

3. Oracle WebLogic Server を起動し、管理コンソールを使用して *ibse.war* ファイルをデプロイします。
4. Web ブラウザで BSE 構成ページを開きます。

```
http://host name:port/ibse/IBSEConfig
```

ここで、*host name* は BSE がインストールされているシステムで、*port* は BSE がリスニングするポート番号です。

5. リポジトリ・タイプとして *SQL Server* を選択し、それに従ってパラメータの値を入力します。
6. 次のパラメータを入力し、それに対応する値を指定します。

リポジトリ URL: リポジトリの JDBC URL。次に例を示します。

```
jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=SQLRepository
```

リポジトリ・ドライバ: MS SQL Server データベース用の JDBC ドライバ・クラス。次に例を示します。

```
com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
```

リポジトリ・ユーザー: データベースのユーザー名。

リポジトリ・パスワード: このユーザーのパスワード。

図 2-55 に、MS SQL Server データベース用の BSE リポジトリ構成のサンプルを示します。

図 2-55 BSE リポジトリのダイアログ

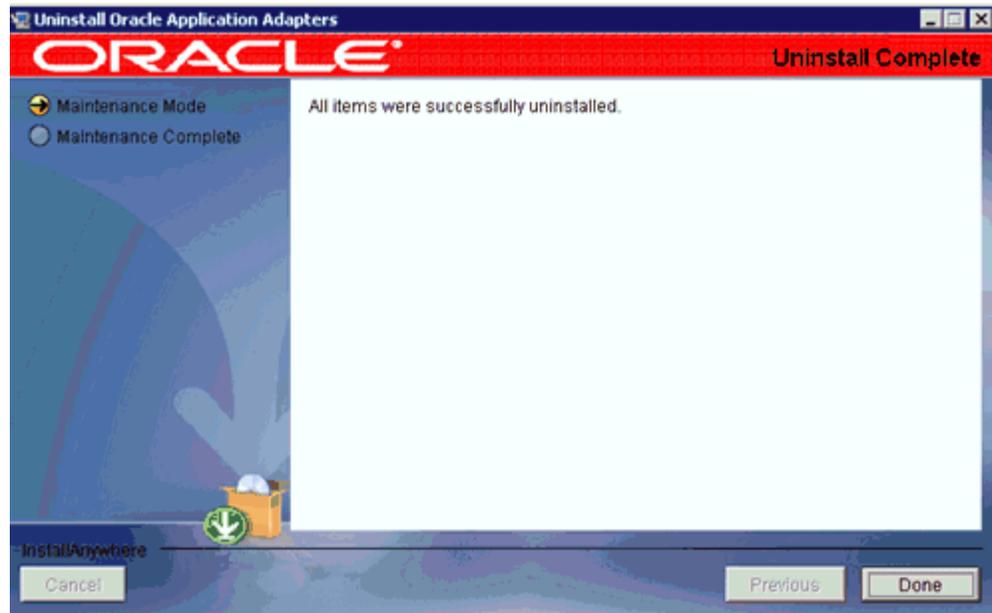
7. 「保存」をクリックします。
8. Oracle WebLogic Server を再起動します。
これで、BSE 構成用の MS SQL Server リポジトリのインストールと構成は完了です。

2.9 Oracle Fusion Middleware Application Adapters のアンインストール

Windows プラットフォームまたは UNIX/Linux プラットフォームで Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次に示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに移動します。
<ADAPTER_HOME>_Oracle_Application_Adapters_Uninstallation
2. `uninstaller.exe` ファイルをダブルクリックします。
その他のプラットフォームでは、ターミナルからプラットフォーム固有のアンインストーラを実行します。AIX プラットフォームの場合、`uninstaller.jar` を使用します。
メンテナンス・モード画面が表示されます。
3. **次**をクリックし、さらに**アンインストール**をクリックします。
アンインストール・プロセスが開始されます。
4. アンインストールが完了したら、図 2-56 に示すように、アンインストールの成功を示すメッセージが表示されることを確認し、「完了」をクリックします。

図 2-56 アンインストール完了画面



注意： アンインストーラでは、インストール時に作成されたフォルダとファイルのみが削除されます。インストール後に作成されたフォルダまたはファイルは手動で削除する必要があります。

2.9.1 サイレント・アンインストーラの使用

Windows プラットフォームまたは UNIX/Linux プラットフォームでサイレント・アンインストーラを使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapters for Oracle WebLogic Server をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次を示す SOA または OSB のアダプタのインストール・ディレクトリに移動します。
`<ADAPTER_HOME>_Oracle_Application_Adapters_Uninstallation`
2. 次のコマンドを実行します。
`Oracle_Application_Adapters_Uninstallation.exe -i silent`
3. アンインストールが完了したら、Oracle Fusion Middleware Application Adapters が正常にアンインストールされたことを確認します。

注意： アンインストーラでは、インストール時に作成されたフォルダとファイルのみが削除されます。インストール後に作成されたフォルダまたはファイルは手動で削除する必要があります。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft の構成

この付録では、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft を構成する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- A.1 項「PeopleSoft のバージョンの指定」
- A.2 項「アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール」
- A.3 項「PeopleTools のアップグレード」

A.1 PeopleSoft のバージョンの指定

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft では、複数のバージョンの PeopleSoft がサポートされます。ただし、特定のバージョン間では相互に互換性がないため、ご使用のバージョンをアダプタに認識させる必要があります。

インストール後、PeopleTools 8.4x リリースの *iwpsci84.jar* ファイルがデフォルトの場所に配置されます。次に例を示します。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

PeopleTools 8.1x リリースの *iwpsci81.jar* ファイルは、次のディレクトリにあります。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

Windows 以外のシステムでは、対応する場所を使用します。

確実にアダプタを正しく機能させるために、使用するリリースに対応するファイルを使用してください。

- PeopleSoft 8.4x リリースの場合は、*iwpsci84.jar* を使用します。
- PeopleSoft 8.1x リリースの場合は、*iwpsci84.jar* を削除して、次の場所から *iwpsci81.jar* をコピーします。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

コピー先は次の場所です。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

```
<ADAPTER_HOME>\iwafjca.rar
```

`lib` ディレクトリの内容を変更した後は、すべてのコンポーネント (例: アプリケーション・エクスペローラ、SOA サーバーおよび OSB サーバー) を再起動します。

A.2 アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft には、2つのカスタム・コンポーネント・インタフェースが含まれます。Oracle WebLogic Server Adapter アプリケーション・エクスペローラでは、これらのコンポーネント・インタフェースを使用してイベントおよびサービスのスキーマを作成します。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のコンポーネント・インタフェースを構成するには、次の項を参照してください。

1. [A.2.1 項「コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド」](#)
2. [A.2.2 項「コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成」](#)
3. [A.2.3 項「Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft 用の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール」](#)

A.2.1 コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft で提供されるコンポーネント・インタフェースは、PeopleSoft プロジェクトを介して配布されます。

- PeopleSoft リリース 8.4 の場合、`iwpsci84.zip` にパッケージされている `IWY_CI_84` プロジェクト。
- PeopleSoft リリース 8.1 の場合、`iwpsci81.zip` にパッケージされている `IWY_CI_81` プロジェクト。

これらのファイルのデフォルトの場所は次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft
```

コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルド

`IWY_CI_81` または `IWY_CI_84` プロジェクトを PeopleSoft にインポートするには、次の手順を実行します。

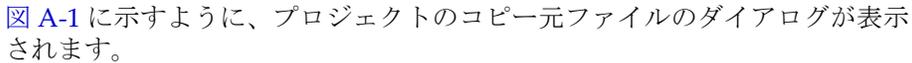
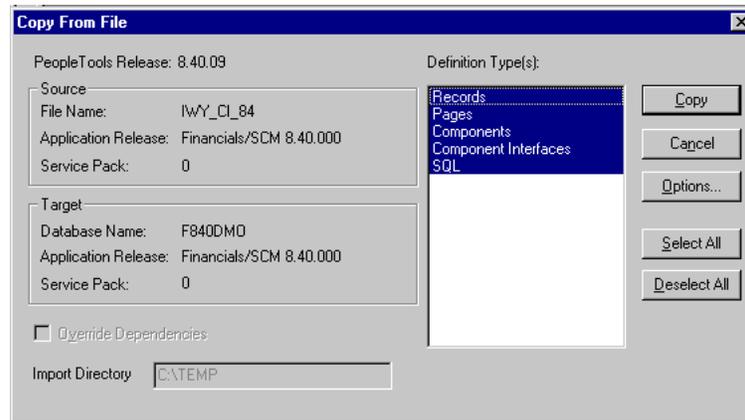
1. `iwpsci81.zip` または `iwpsci84.zip` を任意のディレクトリに解凍します。
解凍処理によって固有のサブディレクトリが作成されます。たとえば、ファイルを `c:\temp` に抽出する場合、`c:\temp\IWY_CI_81` または `c:\temp\IWY_CI_84` が作成されます。
2. PeopleSoft アプリケーション・デザイナを 2 層モードで起動します。
3. 次の手順で、「コピー元ファイル」プロジェクト選択ダイアログを開きます。
 - PeopleSoft 8.4 の場合、「ツール」メニューから「プロジェクトのコピー」を選択し、さらに「ファイルからコピー」を選択します。
 - PeopleSoft 8.1 の場合は、「ファイル」メニューからプロジェクトのコピー元ファイルを選択します。
 [図 A-1](#) に示すように、プロジェクトのコピー元ファイルのダイアログが表示されます。
4. ファイルを解凍した元のディレクトリにナビゲートします。

図 A-1 「コピー元ファイル」ダイアログ



- 「開く」(リリース 8.4)または「コピー」(リリース 8.1)をクリックすると、「コピー元ファイル」ダイアログが表示されます。

注意: 前出の図は PeopleSoft リリース 8.4 の画面を表していますが、それぞれの説明はリリース 8.1 および 8.4 に正確に対応しています。

- 「定義タイプ」にリストされているすべてのオブジェクトを強調表示して、「コピー」をクリックします。

図 A-2 に示すように、正常に完了したことを示すメッセージがアプリケーション・デザイナーに表示されます。

図 A-2 アプリケーション・デザイナーのメッセージ

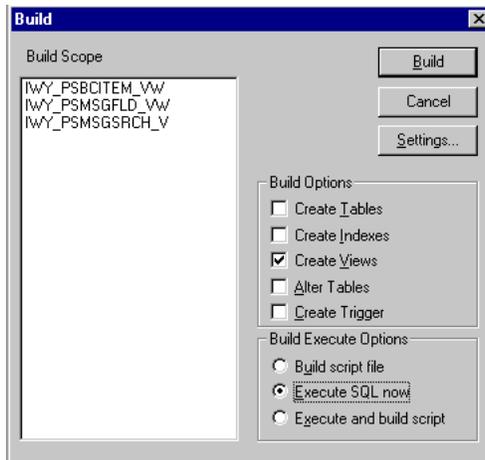
```
Components Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.38 (62,21)
Component Interfaces Application Upgrade Copy started: 2002-10-21-13.01.38 (62,6)
Component Interfaces Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.39 (62,21)
SQL Application Upgrade Copy started: 2002-10-21-13.01.39 (62,6)
SQL Application Upgrade Copy ended: 2002-10-21-13.01.40 (62,21)
```



- プロジェクトのビューをビルドするには、「ビルド」、「プロジェクト」の順に選択します。

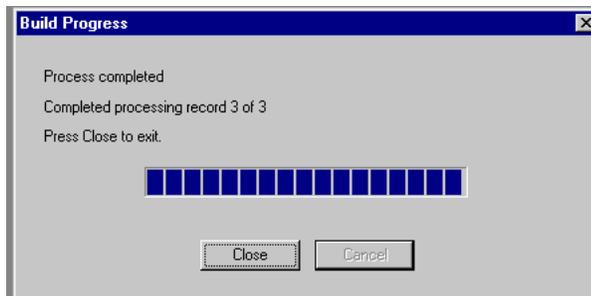
図 A-3 に示すように、「ビルド」ダイアログが表示されます。

図 A-3 「ビルド」 ダイアログ



8. ビルド・オプション・ペインで、**ビューの作成**を選択します。
9. ビルド実行オプション・ペインで、サイトで通常使用するオプションを選択します (前出の図では SQL を今すぐ実行が選択されています)。
10. 「ビルド」をクリックします。
 図 A-4 に示すように、アプリケーション・デザイナーにビルドの進行状況ステータス・ウィンドウが表示されます。

図 A-4 ビルドの進行状況ステータス



ネイティブ SQL ツールを使用して、生成されたビューのレコードを表示すると、レコードが正しくビルドされたことを確認できます。

11. ビューが正しくビルドされていない場合は、「閉じる」をクリックし、SQL ビルドのログ文をダブルクリックします。
 図 A-5 に示すように、PSBUILD ログ・ファイルが表示されます。

図 A-5 PSBuild ログ・ファイル

```

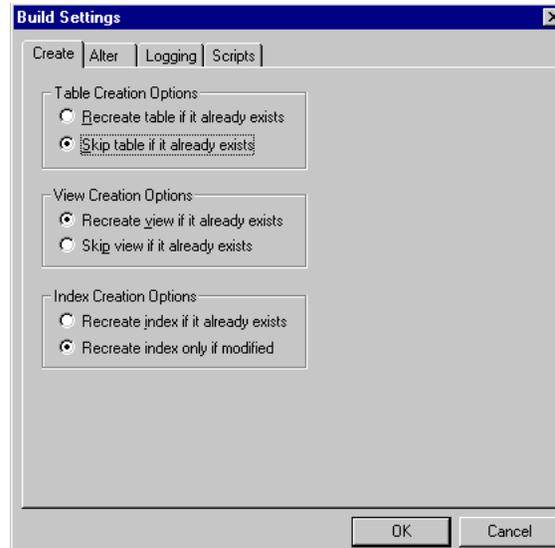
Psbuild.log - Notepad
File Edit Search Help
SQL Build process began on 11/5/02 at 10:29:20 AM for database F840DM0.

SQL Build process ended on 11/5/02 at 10:29:22 AM.
3 records processed, 0 errors, 0 warnings.
SQL executed online.
SQL Build log file written to C:\TEMP\PSBUILD.LOG.
  
```

12. 問題が発生した場合は、「ビルド」、「設定」を選択して、ビルド設定オプションを確認します。

図 A-6 に示すように、ビルド設定ダイアログが表示されます。

図 A-6 ビルド設定ダイアログ



PeopleSoft のアプリケーション・サーバー・データベースによっては、一部のデータベースで表領域名が必要になる場合があります。この機能に関する詳細は、PeopleSoft データベース管理者に問い合せてください。

これで、コンポーネント・インタフェースのインポートおよびビルドが終了しました。コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成に関する詳細は、A-5 ページ「コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成」を参照してください。

A.2.2 コンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成

アプリケーション・エクスプローラには、前述の手順でインポートおよびビルドしたカスタムのコンポーネント・インタフェースが必要です。そのため、アプリケーション・エクスプローラのすべてのユーザーがこれらのコンポーネント・インタフェースにアクセスできることを確認する必要があります。すべての PeopleSoft オブジェクトと同様に、セキュリティは権限リスト・レベルで割り当てられます。サイトのセキュリティ要件を確認して、アプリケーション・エクスプローラを使用するユーザーを決定し、それらのユーザーに属する個別の権限リストに、コンポーネント・インタフェースのセキュリティを設定します。

注意： これらのコンポーネント・インタフェースは、スキーマおよびビジネス・サービスの作成に必要であり、Find メソッドを使用するために実行時に使用されます。コンポーネント・インタフェースには Get および Find のアクセスのみが許可されており、PeopleSoft データベースの更新に使用することはできません。これにより、セキュリティ上の危険性が最小限に抑えられます。

PeopleSoft リリース 8.1 では、2、3 または 4 層モードでセキュリティを設定できます。一方リリース 8.4 以上では、4 層モードのみでセキュリティを設定できます。

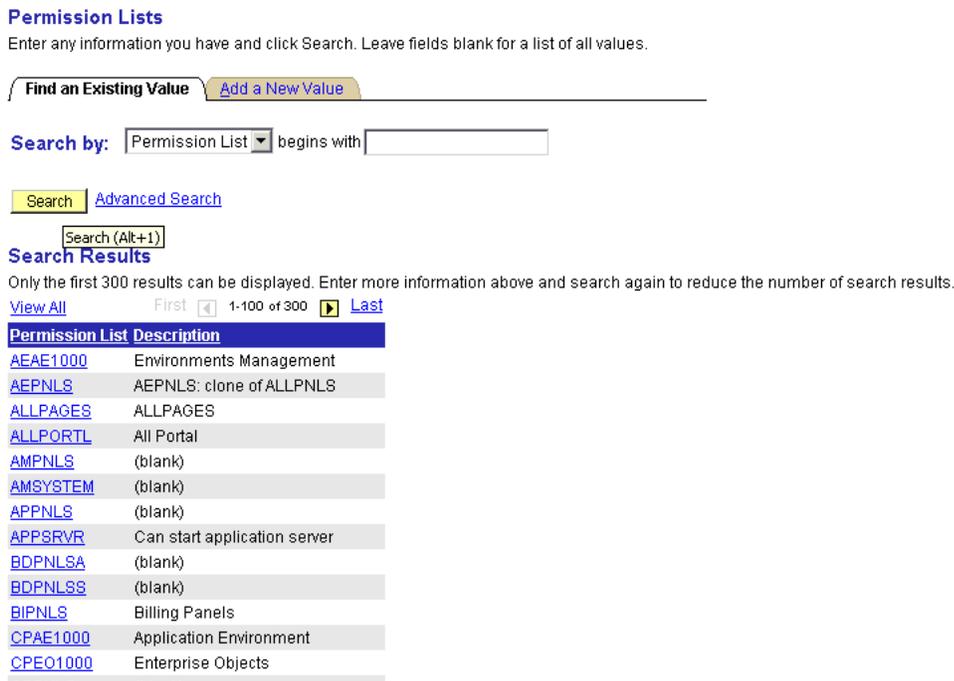
次の手順では、サポートされているすべてのモードで、PeopleSoft のサポート対象の全リリースのセキュリティを構成する方法を説明します。手順に含まれる図は、4 層モードの PeopleSoft リリース 8.4 を反映しています。

図 A-7 PeopleSoft のセキュリティの構成



1. 図 A-7 に示すように、「PeopleTools」、「セキュリティ」、「ユーザー プロファイル」、「権限 / ロール」、「権限リスト」の順に選択します。
2. 「検索」をクリックし、関連する権限リストを選択します。
図 A-8 に示すように、「権限リスト」 ペインが表示されます。

図 A-8 「権限リスト」 ペイン



3. 図 A-9 に示すように、「サインオン時間」タブの横の右向き矢印をクリックし、「コンポーネント インターフェイス」タブを表示します。

図 A-9 「一般」、「ページ」、「PeopleTools」、「プロセス」および「サインオン時間」タブ



4. 「コンポーネント インターフェイス」タブをクリックします。
5. 「コンポーネント インターフェイス」リストに新規行を追加するには、プラス記号 (+) を選択します。

6. **IWY_CI_ATTRIBUTES Component Interface** を入力または選択して、「**編集**」をクリックします。
7. **Get** および **Find** メソッドをフル・アクセスに設定するには、「**全てフルアクセス**」をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックします。
9. **IWY_CI_MESSAGES** コンポーネント・インタフェースに対してステップ 5-8 を繰り返します。
10. 「コンポーネント インターフェイス」ウィンドウの下までスクロールして、「**保存**」をクリックします。

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft とともに配布されたコンポーネント・インタフェースのセキュリティの構成が終了しました。コンポーネント・インタフェースをテストするには、A-7 ページ「[コンポーネント・インタフェースのテスト](#)」を参照してください。

コンポーネント・インタフェースのテスト

Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のコンポーネント・インタフェースを使用する前に、それぞれテストする必要があります。

コンポーネント・インタフェースをテストするには、次の手順を実行します。

1. PeopleSoft アプリケーション・デザイナーで **IWY_CI_ATTRIBUTES** コンポーネント・インタフェースを開きます。
2. 「**ツール**」、「**コンポーネント インターフェイスのテスト**」の順に選択します。

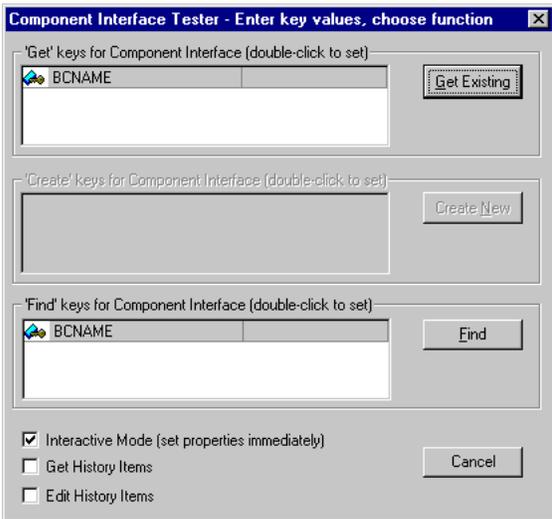
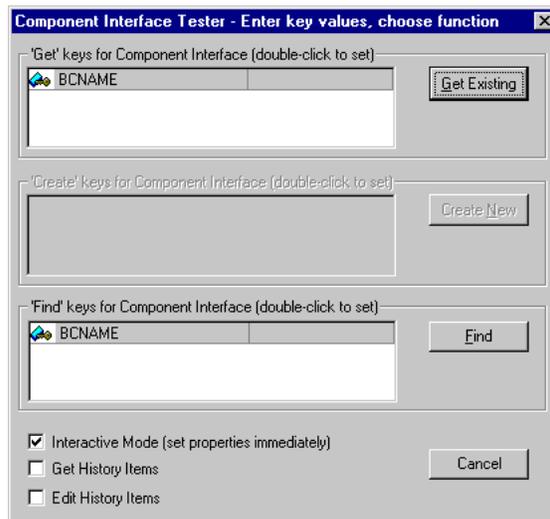
 **A-10** に示すように、コンポーネント インターフェイス テスター・ダイアログが表示されます。

図 A-10 コンポーネント インターフェイス テスター・ダイアログ

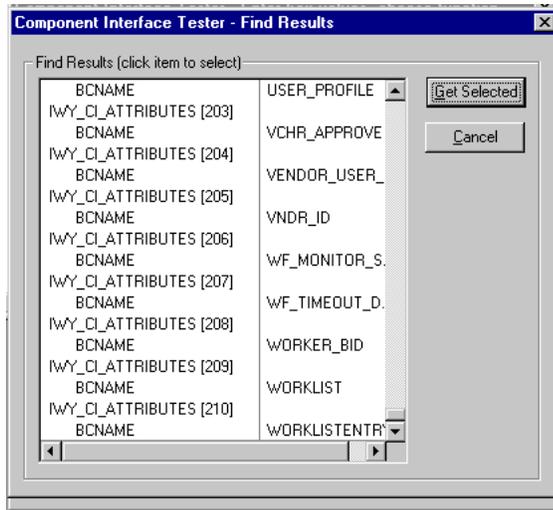


注意： このコンポーネント・インタフェースには **Add** メソッドが適用されないため、新規作成オプションは無効化されています。

3. 「**検索**」をクリックします。基礎となるコンポーネントのエントリが表示されます。

図 A-11 に示すように、表示されるエントリが特定の数に制限されていることを示すメッセージが表示される場合があります。これは問題ありません。

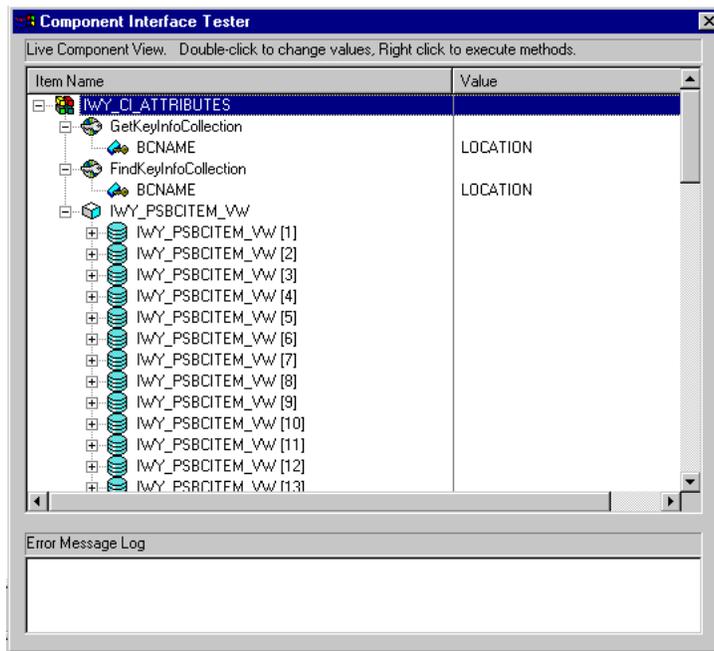
図 A-11 コンポーネント・インタフェース・テスター - 検索結果ダイアログ



4. 検索結果ウィンドウで対応するキーを含む 1 行を強調表示し、**選択を取得**をクリックします。選択したキーの関連データが表示されます。

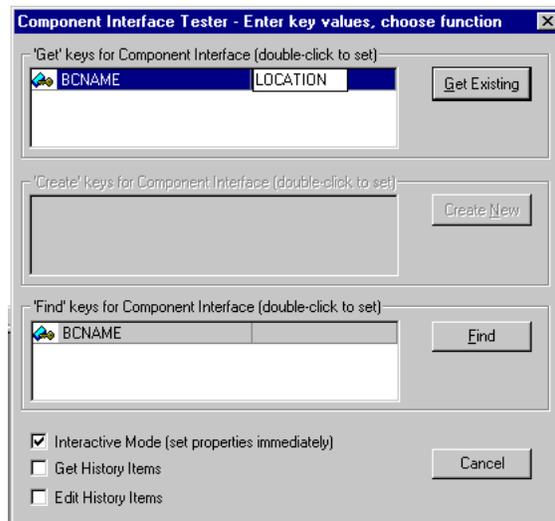
図 A-12 に示すように、このウィンドウが表示されると、コンポーネント・インタフェースの Find メソッドに関するテストが正常に実行されたこととなります。

図 A-12 コンポーネント・インタフェース・テスター・ダイアログ



5. **既存を取得**をクリックします。Get メソッドの場合は、図 A-13 に示すように、既存のキーを入力する必要があります。

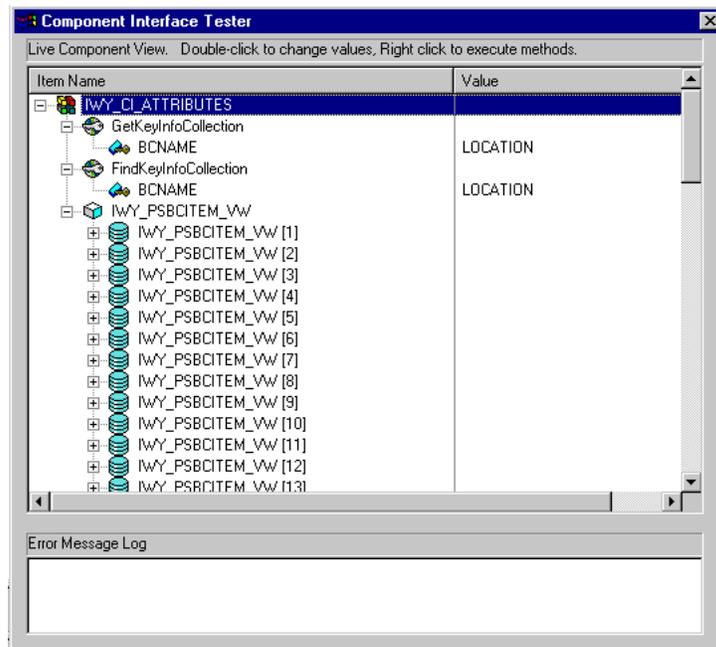
図 A-13 コンポーネント・インタフェース・テスター・ダイアログ - キー値



入力したキーの公開中のプロパティが返されます。

ウィンドウが表示されると、次に示すように、コンポーネント・インタフェースの Get メソッドに関するテストが正常に実行されたこととなります。図 A-14

図 A-14 コンポーネント・インタフェース・テスター・ダイアログ - Get メソッド



6. IWY_CI_MESSAGES コンポーネント・インタフェースに対してこの手順を繰り返します。

コンポーネント・インタフェースのテストが終了しました。

A.2.3 Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft 用の TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターのインストール

TCP/IP および HTTP を使用して PeopleSoft からコンポーネントへ XML イベント・ドキュメントを送信できるようにするには、使用する PeopleSoft のリリースに必要なタイプの TCP/IP および HTTP メッセージ・ルーターをインストールする必要があります。

- リリース 8.4 の場合は、TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタをインストールします。詳細は、A-10 ページ「[PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタのインストール](#)」を参照してください。
- リリース 8.1 の場合は、TCP/IP および HTTP ハンドラをインストールします。詳細は、A-11 ページ「[PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール](#)」を参照してください。

注意： PeopleTools リリース 8.40 以降を使用している場合は、PeopleSoft が配布するターゲット・コネクタを使用することをお勧めします。Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に同梱されているターゲット・コネクタをインストールしないでください。

以前の PeopleSoft リリース (PeopleSoft 8.1 シリーズ) から新しい PeopleSoft リリースに移行するお客様向けに、PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP ターゲット・コネクタ構成が提供されています。

PeopleTools バージョン 8.1 から 8.4 に移行する場合は、PeopleSoft が配布するターゲット・コネクタを使用することをお勧めします。iWay が提供する TCP/IP ターゲット・コネクタは使用しないでください。

イベント処理に PeopleSoft のメッセージを使用しない場合は、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に同梱されている TCP および HTTP のターゲット・コネクタのインストール方法が説明されている手順を省略します。

PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタのインストール

PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft とともにインストールされます。デフォルトの場所は次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft\iwpsvent84.jar
```

PeopleSoft リリース 8.4 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタをインストールするには、次の手順を実行します。

1. iwpsvent84.jar から TCPIPTARGET84.class を抽出します。ご使用のプラットフォームの任意の抽出ユーティリティを使用してください。
2. TCPIPTARGET84.class を、PeopleSoft ゲートウェイ Web サーバーがあるプラットフォームに移植します。
3. PeopleSoft サーバーのターゲット・コネクタ・ディレクトリに TCPIPTARGET84.class を配置します。

次に例を示します。

```
$PS_HOME/weberv/servletclasses/TCPIPTARGET84.class
```

PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール

PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ターゲット・コネクタは、Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft とともにインストールされます。デフォルトの場所は次のとおりです。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\peoplesoft\iwpsvent81.jar
```

この場所がない場合は、販売代理店に問い合わせて、関連するファイルのコピーを入手してください。

PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ハンドラをインストールするには、次の手順を実行します。

1. iwpsvent81.jar を、PeopleSoft ゲートウェイ Web サーバーがあるプラットフォームに移植します。
2. PeopleSoft Web サーバーの servletclasses ディレクトリに iwpsvent81.jar を配置します。

次に例を示します。

```
$PS_HOME/webserv/servletclasses/iwpsvent81.jar
```

3. 組込みクラスのファイルを抽出します。

UNIX システムでの TCP/IP および HTTP ハンドラのインストール

UNIX システムで PeopleSoft リリース 8.1 の TCP/IP および HTTP ハンドラをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 正しい PeopleSoft の ID および権限を使用して UNIX システムにログインします。
2. PeopleSoft Web サブレットのディレクトリに移動します。このディレクトリはリリースによって異なる場合がありますが、通常は次のディレクトリです。

```
$PS_HOME/webserv/servletclasses
```

3. jar コマンドを発行して、PeopleSoft に必要なクラス・ファイルを抽出します。

次にコマンドの例を示します。

```
jar -xvf /tmp/iwpsvent81.jar
```

Sun (Solaris) システムでは次の出力が表示されます。

```
$ jar -xvf /tmp/iwpsvent81.jar
created: META-INF/
extracted: META-INF/MANIFEST.MF
extracted: psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$Entry.class
extracted:
psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$HandlerEntry.class
extracted:
psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81$PublicationHandler.class
extracted: psft/pt8/tcphandler/TCPIPHandler81.class
$
```

注意： ファイルは、psft/pt8 の下の tcphandler という新規ディレクトリに配置されます。

A.3 PeopleTools のアップグレード

この項では、PeopleTools のアップグレードの手順と考慮事項について説明します。

1. PeopleTools バージョン 8.1 からバージョン 8.4 にアップグレードする場合は、A-1 ページ [A.1 項「PeopleSoft のバージョンの指定」](#) を参照してください。
2. 新しい PeopleTools バージョンで、iWay Software が配布するカスタム・コンポーネント・インタフェースが利用可能であることを確認します。

PeopleTools の以前のバージョンから新しいバージョンに移行する場合、PeopleSoft によってコンポーネント・インタフェースが自動的に移行されます。そうでない場合は、iWay Software が配布するカスタム・コンポーネント・インタフェースを再インストールする必要があります。詳細は、A-2 ページ [A.2 項「アダプタのコンポーネント・インタフェースのインストール」](#) を参照してください。

3. iWay Software が配布する TCP/IP ハンドラを現行の製品バージョンの PeopleTools にインストールした場合は、次のステップを実行します。
 - a. 現在 PeopleTools バージョン 8.1 を使用しており、PeopleTools バージョン 8.4 に移行する場合は、PeopleSoft が配布する HTTP コネクタを使用することをお勧めします。詳細は、『Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド』の付録 D 「PeopleSoft Integration Broker の使用」を参照してください。
 - b. 現在 PeopleTools バージョン 8.4 と TCP/IP ハンドラを使用している場合は、PeopleSoft が配布する HTTP コネクタを使用することをお勧めします。詳細は、『Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド』の付録 D 「PeopleSoft Integration Broker の使用」を参照してください。
4. PeopleSoft Integration Broker を使用して Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft に対してメッセージを公開する場合は、PeopleTools のリリース・ノートおよびユーザー・ガイドで、PeopleSoft Integration Broker の現在の動作に関する変更点を参照してください。
5. Oracle Fusion Middleware Application Adapter for PeopleSoft のインストール先の \lib フォルダで、次の手順を実行します。

```
<ADAPTER_HOME>\lib
```

- a. Oracle WebLogic Server が実行中の場合は停止します。
 - b. 現在の psjoa.jar およびコンポーネント・インタフェース API の .jar ファイルのバックアップ・コピーを作成してから、これらのファイルを \lib フォルダから削除します。
 - c. 新しい psjoa.jar およびコンポーネント・インタフェース API の .jar ファイルを \lib フォルダにコピーします。詳細は、『Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Server Application Adapter for PeopleSoft ユーザーズ・ガイド』の付録 A 「コンポーネント・インタフェース API の生成」を参照してください。
 - d. Oracle WebLogic Server を起動します。
6. アプリケーション・エクスプローラを使用して、定義済のアダプタ・ターゲットおよびチャネルに対する接続パラメータ値を変更します。
 - a. Oracle WebLogic Server を停止します。
 - b. アプリケーション・エクスプローラを開きます。

アダプタ・ターゲットおよびチャネルには、以前のバージョンの PeopleSoft サーバーと PeopleTools に基づいたパラメータ値が格納されています。これ

らの値は、現在のバージョンの PeopleSoft サーバーと PeopleTools に合わせて変更する必要があります。

- c. アプリケーション・エクスプローラを閉じます。
 - d. Oracle WebLogic Server を起動します。
7. 新しいサーバー用に新しいアダプタ・ターゲットおよびチャネルを作成した場合は、WSDL ファイルを生成しなおして、それらをプロセスで使用する必要があります。その理由は、WSDL ファイルにはアダプタ・ターゲット名とチャネル名が格納されており、古いターゲットとチャネルで作成された WSDL ファイルには、新しいターゲットとチャネルとの互換性がないためです。

Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld の構成

この付録では、Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld を構成する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- B.1 項「アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更」
- B.2 項「OneWorld イベント・リスナー」
- B.3 項「OneWorld イベント・リスナーの構成」
- B.4 項「実行時の概要」

B.1 アウトバウンドおよびインバウンド処理のための JDE.INI ファイルの変更

この項では、XML コール・オブジェクト・カーネル (アウトバウンドおよびインバウンド処理) のために *JDE.INI* ファイルで行う必要がある設定について説明します。

JDE.INI ファイルは、次に示すエンタープライズ・サーバーのディレクトリにあります。

```
\\system\bin32
```

JDE.INI ファイルを開き、*[JDENET_KERNEL_DEF6]* セクションと *[JDENET_KERNEL_DEF15]* セクションを次のように変更します。

```
[JDENET_KERNEL_DEF6]
krnlName=CALL OBJECT KERNEL
dispatchDLLName=XMLCallObj.dll
dispatchDLLFunction=_XMLTransactionDispatch@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF15]
krnlName=XML TRANSACTION KERNEL
dispatchDLLName=XMLTransactions.dll
dispatchDLLFunction=_XMLTransactionDispatch@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1
```

アンダースコア () および @28 を含むパラメータは、Windows NT オペレーティング・システム専用です。その他のオペレーティング・システムの場合は、これらのパラメータを次の表の値に置き換えてください。

オペレーティング・システム	コール・オブジェクト・ディスパッチ DLLName	XML トランザクション・ディスパッチ DLLName
AS400	XMLCALLOBJ	XMLTRANS
HP9000B	libxmlcallobj.sl	libxmltransactions.lo
Sun または RS6000	libxmlcallobj.so	Libxmltransactions.so

注意： バージョン B7333(XE) の J.D. Edwards OneWorld インストールでは、`[JDENET_KERNEL_DEF15]` セクションがありません。そのため、バージョン B7333(XE) を使用する場合は、このセクションを `jde.ini` に手動で追加する必要があります。それ以外のバージョンの J.D. Edwards OneWorld インストールでは、`[JDENET_KERNEL_DEF15]` があります。

B.2 OneWorld イベント・リスナー

Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld イベント・リスナーは、J.D. Edwards が承認する OneWorld ビジネス・イベントへのアクセスを提供する目的で設計されています。OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld ビジネス関数を使用して実行される専用アプリケーションであり、OneWorld アプリケーション・システムによってコールされます。

OneWorld アプリケーション・システムによって、目的のイベントに関するイベント情報の取得に必要な情報がイベント・リスナーに提供されます。OneWorld 環境の構成に関する詳細は、次のガイドを参照してください。『J.D. Edwards OneWorld 相互運用性ガイド』

OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld アプリケーションから直接コールされ、Z ファイル・レコード識別子を受け取ります。この識別子によってリクエスト・ドキュメントが生成され、処理のためにサーバーに渡されます。サーバーは、J.D. Edwards OneWorld システムからイベント情報を取得し、他のアプリケーション・システムとの統合のために、その情報を伝播します。

B.3 OneWorld イベント・リスナーの構成

OneWorld イベント・リスナーは、Oracle Fusion Middleware Application Adapters インストールの一部としてインストールされます。OneWorld イベント・リスナーでは、TCP/IP および HTTP プロトコルがサポートされます。

OneWorld イベント・リスナーは、OneWorld 環境での構成に従い、特定のトランザクションに対して J.D. Edwards によって起動されます。

OneWorld イベント・リスナーに含まれるコンポーネントは次のとおりです。

- リスナー・イベント・スタブ `IWOEvent.dll`。これは `\etc\jde` ディレクトリにあります。次に例を示します。

```
<ADAPTER_HOME>\etc\jde\iwoevent.dll
```

ファイル拡張子は、使用しているオペレーティング・システムによって異なります。

- **Windows** の場合、イベント・スタブは `iwoevent.dll` です。
- **Sun Solaris** の場合、イベント・スタブは `libiwoevent.so` です。
- **HP-UX** の場合、イベント・スタブは `libiwoevent.sl` です。

- AS/400 の場合、イベント・スタブは *iwaysav.sav* です。
- IBM AIX の場合、イベント・スタブは *libiwoevent.so* です。
- リスナー構成ファイル *iwoevent.cfg*。これはユーザーが作成する必要があります。

OneWorld イベント・リスナー・エグジットは、OneWorld アウトバウンド・トランザクション表のレコードのキー・フィールドを、インバウンドの Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld で処理させるために統合サーバーに渡す関数です。OneWorld イベント・リスナーは、J.D. Edwards OneWorld エンタープライズ・サーバーの下にデプロイされます。OneWorld イベント・リスナーの Java クラスは *IWOEvent* (ファイル拡張子はオペレーティング・システムによって異なる) と呼ばれ、大文字と小文字が区別されます。

1. JDE エンタープライズ・サーバーの JDE 構造の下に、Outbound という名前のフォルダを作成します。次に例を示します。

```
\\JDEdwards\E812\DDP\Outbound
```

2. 新しい Outbound フォルダ内に *iwoevent.dll* ファイルをコピーします。
3. 環境変数 *IWOEVENT_HOME* を作成し、*iwoevent.dll* ファイルが含まれるディレクトリを指定します。
 - Windows の場合: システム環境変数に *IWOEVENT_HOME* を追加します。
 - UNIX の場合: 使用する起動スクリプトに次のコマンドを追加します。

```
export IWOEVENT_HOME =/directory_name
```

4. J.D. Edwards OneWorld サーバーで、*iwoevent.cfg* ファイルを定義済ディレクトリ *IWOEVENT_HOME* に作成します。

OneWorld イベント・リスナーでイベントを正しく開始するためには、関連付けられているアダプタの接続情報が必要です。この情報は *iwoevent.cfg* ファイルに格納されます。このファイルを作成し、接続情報をファイルに追加する必要があります。OneWorld イベント・リスナーが正しく機能するためには、関連付けられている統合サーバーの接続情報が必要です。この情報は *iwoevent.cfg* ファイルに格納されます。*iwoevent.cfg* ファイルには 3 つの個別セクションがあります。

■ common

構成ファイルの **common** セクションには、基本の構成オプションが含まれます。現在サポートされているのはトレース・オプションのみです。

トレース・オプションを設定するには、**on** または **off** を選択します。

```
common.trace=on|off
```

on を選択するとトレースがオンに設定され、**off** を選択するとトレースがオフに設定されます。デフォルト値は **off** です。

OneWorld イベント・リスナーでは、デフォルトで TCP/IP がサポートされません。このリスナーに対して HTTP プロトコルをアクティブ化するには、次の行を追加します。

```
common.http=on
```

■ alias

構成ファイルの **alias** セクションには、特定のサーバーにトランザクションを送信するために必要な接続情報が含まれます。Oracle Application Adapter for

J.D. Edwards OneWorld では現在、構成ファイル内で 100 のエントリ (別名) がサポートされます。

これらのエントリの `alias` 値は次のとおりです。

```
Alias.aliasname={ipaddress|dsn}:port, trace={on|off}
```

`aliasname` は、接続に対して指定されたシンボリック名です。

`ipaddress|dsn` は、Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld が格納されているサーバーの IP アドレスまたは DSN 名です (必須)。

`port` は、TCP チャンネル構成で Oracle Application Adapter for J.D. Edwards OneWorld に対して定義されているポートです (必須)。

`trace={on|off}` によって、特定の別名のトレースがオンに設定されます。

- **trans**

構成ファイルの `trans` セクションには、J.D. Edwards OneWorld のトランザクションを特定のサーバーにルーティングするために必要なトランザクション情報が含まれます。

特定の J.D. Edwards OneWorld トランザクションがいずれかの別名に対して定義されていない場合、そのトランザクションはすべての別名に送信されます。これらのエントリの `trans` 値は次のとおりです。

```
trans.jdeTransactionName=alias1,alias2,aliasn
```

`jdeTransactionName` はアウトバウンド・トランザクションの JDE 定義名です。`alias1,alias2,aliasn` はトランザクションの送信先となる別名のリストです。

接続情報を提供する `iwoevent.cfg` のエントリの例を次に示します。

```
common.trace=on

alias.edamcs1=172.1.1.1:3694
alias.edamcs1t=172.1.1.1:3694, trace=on
alias.edamcs2=222.2.2.2:1234

trans.JDES00OUT=edamcs1t,edamcs2
trans.JDEP00OUT=edamcs1
```

5. `iwoevent.cfg` ファイルで指定した別名を使用して、`IWOEVENT_HOME` の下にフォルダを作成します。次に例を示します。

```
\\JDEdwards\E812\DDP\Outbound\edamcs1
```

B.3.1 AS/400 でのイベント・リスナーの構成

`iwoevent.cfg` ファイルを構成するには、次の手順を実行します。

1. CRTDIR コマンドを使用して、J.D. Edwards OneWorld アプリケーション・サーバーがアクセスできる AS/400 上にディレクトリを作成します。

次に例を示します。

```
CRTDIR DIR('/e810sys/outbound') DTAAUT(*RW)
```

2. 作成したディレクトリに、`iwoevent.cfg` 構成ファイルをコピーします。

次に例を示します。

```
/e810sys/outbou
```

3. `iwoevent.cfg` ファイルで指定した別名を使用してディレクトリを作成します。
4. J.D. Edwards OneWorld アプリケーション・サーバー用に、`IWOEVENT_HOME` という環境変数を追加します。

この値には、ステップ 1 で指定したディレクトリのフル・パスを使用します。

次に例を示します。

```
ADDENVVAR ENVVAR(IWOEVENT_HOME) VALUE('/e810sys/outbound') LEVEL(*SYS)
```

`iwoevent.cfg` 構成ファイルでトレースを有効にしている場合 (`trace=on`)、`iwoevent.log` トレース・ファイルが `IWOEVENT_HOME` ディレクトリに作成されます。

サンプル `iwoevent.cfg` 構成ファイル

次のサンプル `iwoevent.cfg` 構成ファイルを、参照の目的で使用できます。

```
common.trace=on
alias.JDE=172.30.24
```

イベント・スタブの構成

イベント・スタブを構成するには、次の手順を実行します。

1. `iSeries` のコンソールで `CRTLIB` コマンドを使用して、一時ライブラリを作成します。

次に例を示します。

```
CRTLIB IWAYTEMP
```

2. `CRTSAV` コマンドを使用して、先ほど作成したライブラリにオンライン・セーブ・ファイルを作成します。

次に例を示します。

```
CRTSAVF IWAYTEMP/IWAYSAY
```

3. FTP を使用して、使用している `iSeries` システムに `iwaysav.sav` ファイルをアップロードします。

次に例を示します。

```
FTP YourSystemName
Login
BIN
PUT IWAYSAY.SAV IWAYTEMP/IWAYSAY
```

`YourSystemName` は、使用している `iSeries` システムの名前です。

4. `iSeries` のコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
RSTLIB SAVLIB(IWAYPLUGIN) DEV(*SAVF) SAVF(IWAYTEMP/IWAYSAY)
```

`IWAYPLUGIN` という新しいライブラリが作成され、`EVENTPLUG` というオブジェクトが 1 つ格納されます。

注意： P0047(Work With Data Export Controls) アプリケーションを使用して、関数ライブラリを `IWAYPLUGIN/EVENTPLUG` として指定する必要があります。

B.4 実行時の概要

OneWorld で OneWorld イベント・リスナーが起動すると、このリスナーは `iwoevent.cfg` (大文字と小文字は区別されます) という名前の構成ファイルにアクセスします。この構成ファイルの情報に基づいて、リスナーはイベント通知を統合サーバーに送信します。すべてのログ情報は、`iwoevent.log` というファイルに保存されます。`iwoevent.log` ファイルは、`iwoevent.dll` および `iwoevent.cfg` ファイルが配置されている `outbound` フォルダに作成されます。

索引

B

batch.log ファイル, B-2
BSE システム設定, 2-56
BSE システム設定の構成, 2-56
BSE 構成ページ, 2-54
BSE 設定ウィンドウ, 2-54

D

DSN(データソース名), B-4

I

「iBSE URL」フィールド, 2-17
IP アドレス, B-4
iwoevent.cfg ファイル, B-3 ~ B-4
iwoevent.cfg ファイルの alias セクション, B-3
iwoevent.cfg ファイルの common セクション, B-3
iwoevent.cfg ファイルの trans セクション, B-3
iwoevent.log ファイル, B-2
IWOEvent リスナー・エグジット, B-2

J

J.D. Edwards OneWorld イベント・リスナー, B-2 ~ B-6
jde TransactionName, B-4

O

OneWorld イベント・リスナー, B-2 ~ B-6
Oracle Unified Method (OUM), viii
Oracle WebLogic Server Adapter Business Services Engine, 1-2

W

Web サービス
配信, 2-55
Web サービス・プロジェクト
作成, 2-15

X

XDJdeOutboundAgent, B-2

Z

Z ファイル, B-2

あ

アウトバウンド・エージェント, B-2
アウトバウンド・トランザクション, B-2
アウトバウンド処理, B-2
アクセス方法, B-2
「アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ」パラメータ,
2-55

い

イベント・リスナー, B-2 ~ B-3
インストールのタスク, 2-2

え

「エンコーディング」パラメータ, 2-55

お

オペレーティング・システム要件, 1-4

け

「言語」パラメータ, 2-55

こ

構成
接続, 2-30, 2-35
定義, 2-15 ~ 2-18
構成ノード, 2-16 ~ 2-17

さ

「サービス・プロバイダ」リスト, 2-16 ~ 2-18

し

システム設定
構成, 2-56
システム・パラメータ
アダプタ・ライブラリ・ディレクトリ, 2-55

エンコーディング, 2-55
言語, 2-55
デバッグ・レベル, 2-55
非同期プロセッサの数, 2-55
「新規構成」ダイアログ・ボックス, 2-16 ~ 2-18

せ

接続情報, B-3
接続パラメータ
ポート, 2-54, 2-61, 2-65

そ

ソフトウェア要件, 1-4

て

データソース名 (DSN), B-4
「デバッグ・レベル」パラメータ, 2-55

と

トランザクション
格納, 2-55
トレース設定, B-4

の

ノード
構成, 2-16 ~ 2-17

は

ハードウェア要件, 1-2
パッケージ化されたアプリケーション・アダプタの
ディレクトリ構造, 2-50
パラメータ・タイプ
システム, 2-55
リポジトリ, 2-56

ひ

「非同期プロセッサの数」パラメータ, 2-55

へ

別名, B-3 ~ B-4

ほ

ポート, B-4
ポート・パラメータ, 2-54, 2-61, 2-65
ポート番号パラメータ, 2-17
ホスト名パラメータ, 2-17, 2-54, 2-61, 2-65

め

メタデータ
格納, 2-55

ら

ライブラリ・ファイルのコピー, 2-49

り

リスナー, 2-30, B-2 ~ B-4
リスナー。チャンネルも参照
リスナー・エグジット, B-2
リスナー構成ファイル, B-3, B-6
「リポジトリ URL」パラメータ, 2-56
「リポジトリ・タイプ」パラメータ, 2-56
「リポジトリ・ドライバ」パラメータ, 2-56
「リポジトリ・パスワード」パラメータ, 2-56
「リポジトリ・プーリング」パラメータ, 2-56
「リポジトリ・ユーザー」パラメータ, 2-56
リポジトリ・パラメータ
URL, 2-56
タイプ, 2-56
ドライバ, 2-56
パスワード, 2-56
「パスワード」, 2-56
ユーザー, 2-56
リポジトリ・プロジェクト
作成, 2-18
リポジトリ・プロジェクトの作成, 2-18

れ

レコード識別子, B-2